



千葉大学医学部同窓会報 第194号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 るのほな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1 千葉大学医学部内 るのほな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : https://www.inohana.jp/



年頭の挨拶

千葉大学医学部

創立150周年を迎えて

るのほな同窓会長 吉原俊雄(昭53)



新年あけましておめでとうございます。令和6年(2024年)は共立病院の開院(明治7年8月)に始まり千葉大学医学部として創立150周年を迎えることとなります。今日に至る輝かしい歴史は、一昨年4月11日に同窓会HPに公開されています。150周年メモリアル事業の一つ「千葉大学医学部歴史年表」をご覧頂くと、共立病院開設初代学長から現学長、歴代同窓会長、各講座の成り立ちと全教授のお名前や写真とともに紹介されています。現在、この年表は医学系総合研究棟(治療学研究棟)のアクティブラーニングスペースにも供覧されています。

また令和4年夏から同じくメモリアル事業として作製された記録DVD「千葉大学医学部旧本館85年の記憶」もご案内開始から1年半が経過し、1700枚ほどの数が多い方の手元に渡り、大きなインパクトを持って迎えられています。まだご存じでない同窓会役員も多く、今後は同窓会役員、学年幹事には、広く伝えていく努力が求められています。このDVDの効果により、複数の新聞社からの取材を受けました。周知の先生も多くおられますが、昨年9月には2度に渡り千葉日報の記事に掲載されています。さらに記事を読まれた同窓以外の方からも旧本館(旧病院)に対する思いを綴られた原稿をいただきました。また千葉市立郷土博物館館長も新聞記事とDVDから、旧本館に関連

する貴重な文章を頂いており、博物館のホームページにも公開されています。事務局佐藤とともに千葉城内の郷土博物館を訪れた際には、旧本館に関する資料や千葉市の医療の歴史についてお話しを伺うことができました。皆、同窓以上に旧本館の価値を高く評価していることに大変感銘を受けました。旧本館の保存については多くの同窓の先生、千葉大学工学部の先生方、他医科大学のOBの先生からも貴重なご意見をいただいております。150周年メモリアル事業の企画のうち長尾精一初代学長の胸像の復刻も進んでおります。戦時中に金属類をすべて抛出したため台座のみが残存していたものです。栗原副会長が詳細に調べ、二人で富山県高岡市の制作所に赴き契約しました。千葉市立郷土博物館所蔵の長尾先生胸像レプリカ借用、富山の制作会社に移送も済み、本年には玄鼻台に胸像の勇姿を仰ぎ見る事が出来そうです。さらにもう一つの企画である「旧本館(旧病院)の思い出」をテーマとする記念文集の制作も現在進行中です。原稿の他、写真、絵画、など20余りがすでに集

積しています。原稿締め切りは令和5年12月末でしたが、受付期間を延長する予定です。ぜひご寄稿いただければと思います。11月19日(日)にはホームカミングデーが開催され、卒業50年(昭48)の先生方、卒業25年(平10)の先生方、そして同時に卒業60年(昭38)の先生方の同期会としてご参加いただき、感謝状、激励状、記念メダル等の授与がなされ、盛大かつ楽しい時間を共有することができました。12月1日(金)は記念講堂にて医学部4年生の白衣式に臨み、祝辞と白衣授与、今後の臨床実習に向けてのメールと千葉医学の伝統、同窓会の意義について述べました。また、同窓会報については、同窓会ホームページを開いて頂きますと、昭和34

祝 叙 勲

- 令和5年 秋の叙勲
- 瑞宝中經章
- 寺澤 捷年(昭45)
- 旭日双光章
- 小池 清二 (日本歯大・昭39)
- 高齡者叙勲
- 瑞宝双光章
- 長谷川幸子(昭36)

年の第1号から現在までの全バックナンバーの閲覧が可能ですが、学生時代や卒業に起こった出来事、るのほな祭、クラス会、就職就任挨拶など懐かしく閲覧することが可能です。本年は会

報に各支部、各地域で活躍される同窓の先生の近況報告なども掲載できればと考えております。その折はよろしくお願いたします。

最終講義

のご案内

- 精神医学**
- 伊豫 雅臣 教授
 - 日時 2024年3月5日(火) 午後3時より
 - 場所 附属病院3F ガーネットホール
 - 演題 応機展開の精神医学とその底流
 - 臨牀腫瘍学**
 - 瀧口 裕一 教授
 - 日時 2024年2月9日(金) 午後3時より
 - 場所 附属病院3F ガーネットホール
 - 演題 腫瘍内科学の黎明から発展を目指して
 - 総合診療科**
 - 生坂 政臣 教授
 - 日時 2024年2月22日(木) 午後3時より
 - 場所 附属病院3F ガーネットホール
 - 演題 患者の言葉に魅せられて(仮題)
 - 看護学研究 健康増進看護学講座**
 - 小宮山 政敏 教授
 - 日時 2024年3月4日(月) 午後2時25分より
 - 場所 るのほな記念講堂
 - 演題 看護学部での11年
- 紙面紹介**
- 年頭の挨拶 1
 - 長尾精一先生胸像作成 2
 - 人事異動 3
 - 就任挨拶 5
 - 各地のるのほな会 8
 - タッチパネル 9
 - クラス会 11
 - ホームカミングデー 12
 - 研修プログラム 15
 - 研修医だより 18
 - 追悼文 19
 - 学生教育 21
 - 地区のるのほな会報より転載 22
 - 会員から 23
 - 地区のるのほな会報 24
 - 学内情報 25
 - 課外活動団体だより 26
 - 著書紹介 27
 - 欧州医学史巡り 28
 - 雑文雑談 29
 - 議事要旨 30
 - 編集後記 31

150年記念事業

長尾精一初代校長の胸像再建

むのはな同窓会副会長 栗原正利(昭54)



台座の存在

千葉大学医学部むのはなキャンパスで、旧本館と看護学部校舎をつなぐ小道の傍らに高さ2mを超える御影石の台座があるのをご存知でしょうか。樺の木立に囲まれて、鎮座しているという言葉がふさわしいほどのどつしりとした重量感がある台座。しかし台座の上には何も無い(写真1)。近づいてみると、その壁面には長尾精一先生および荻生録造先生と書かれた小さなレリーフ像がある。台座の存在を知る人は多いが、その



写真1 台座とレリーフ



写真2 長尾精一先生



写真3 高村光雲制作の塑像

歴史を知る人はほとんどいない。私もその一人であった。学生時代に出会い何となくすり抜けていった記憶になっている。2021年旧本館は病院として研究棟の役割を終え閉館した。むのはな同窓会は旧本館を記憶に留めるため、ドキュメンタリー映画を作ることにになり、幸いにもZEMでドキュメンタリー映像を手掛ける新倉美帆監督に制作をお願いすることができた。制作にあたり、千葉大学医学部の歴史を徹底的に調べ、一年半をかけて完成したのがDVD「千葉大医学部・旧本館85年の記憶」である。新倉氏とともに千葉大学医学部の歴史を徹底的に調査した。偶然にも、建設当初からの資料が

日本館資料室の片隅に発見された。これがなければ映像制作は出来なかったと言っていた。同時にそれは千葉大学医学部に関する第級の歴史資料となった。その中に台座に関する記録も残っていた。長尾精一先生のプロフィール長尾精一先生に関する歴史を紐解いてみたい。長尾先生は寛永4年(1851年)10月讃岐の国(現香川県)阿野郡国分村に生まれ、明治5年(1872年)に第一学区医学校(現東京大学医学部)に入学。明治13年(1880年)30才の時に千葉病院院長兼医学部教頭、明治20年(1887年)県立千葉医学校は第一高等学校医学部に昇格、明治27年(1894年)第一高等学校校医学部主事および公立千葉病院院長に任ぜられた。専門は産婦人科と小児科である。

明治20年(1887年)9月第一高等学校校医学部となる際に、文部省と交渉したのが長尾先生であった。名古屋市が最有力にあるなかで、当時は馬や牛が農道を歩く片田舎であった千葉町に粘り強い交渉の末に勝ちとつたのである。「名医あつての病院である。すでに立派な病院ができていりし、千葉病院以上の名医がいる所はない。」と「長尾精一伝」には書かれている。その後、千葉医学の目覚ましい発展の歴史を振り返ると、この強引ともいえる誘致は大きかった。長尾先生の写真を見ると、しっかりとした骨格・顎の張った風貌・太くて長い眉、鋭い眼光などから豪快で強い意志の持ち主であることが伺える(写真2)。そのご努力が実を結び、その後、の千葉医学の発展に寄与した人物と言つてよい。その後、明治34年(1901年)4月に千葉医学専門学校に昇格し、長尾先生は初代校長となった。しかしながら、明治35年(1902年)7月

むのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第二九回(二〇二四年度)むのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

- 一、受賞対象者
 - ① 社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。
 - ② 功 労 賞 医療および広く文化の各領域において、千葉大学医学部および千葉大学むのはな同窓会に多大の貢献をした会員。
- 二、表彰
 - ① 社会貢献賞 (二件以内) 盾および賞金(総額二十万円以内)を贈呈します。
 - ② 功 労 賞 (二件以内) 盾および賞金(総額二十万円以内)を贈呈します。
- 三、応募方法
 - 所定の申請用紙により、二〇二三年十二月一日から二〇二四年一月三十一日までに申請して下さい。
- 四、受賞者の決定
 - 常任理事会の議を経て、会長が行います。
 - 審査結果は二〇二四年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、むのはな同窓会報に掲載します。
- 五、問い合わせおよび申請用紙請求先
 - 千葉大学医学部内、むのはな同窓会事務局
 - 申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

人事異動

- 教授
 - 脳神経外科学 樋口 佳則(平4)
- 准教授
 - 薬剤部 山崎 伸吾(東北薬科大・平15)
- 講師
 - 法医学 千葉 文子(平21)
 - 他大学教授
 - 国際医療福祉大学医学部 循環器内科 藤本 善英(平5)
 - 自治医科大学 外科学講座(小児外科部門) 照井 慶太(平10)

令和6年度 むのはな同窓会総会 案内

日時：令和6年6月8日(土) 14:30より

会場：トラストシティ カンファレンス・丸の内

詳細につきましては、後日お知らせいたします。同窓の先生方のご参加をお待ちいたしております。

15日52才の若さで急逝してしまつた。校長就任後わずか1年4か月である。その意志を次いで第二代校長となつたのが荻生緑造先生であつた。

長尾精一先生胸像の建設

それと相前後して、長尾精一先生在職20周年記念に、図書館の前身である「長尾文庫」を造らうとの機運が高まつた。同僚や卒業生の有志が集まり、資金を募つたのである。そして明治34年(1901年)12月に「長尾文庫」の建物が亥鼻地区に竣工した。この時代は全国にも医学図書館がなく、医学図書館設立の法案が成立するのに合わせて行われたのである。長尾先生逝去後10年の時を経て長尾文庫は解散した。その資金の一部を元にして明治44年(1911年)4月に長尾先生の胸像が造られたのである。同年5月8日千葉医学専門学校および千葉病院創立25周年祝賀会に合わせて除幕式が行われたとの記録が残っている。胸像の制作者は彫刻界の巨匠高村光雲である。幸運にも、高村光雲が制作し

た胸像の原型となる塑像が今でも残つている。それは千葉市立郷土博物館に寄贈されていた(写真3)。

当時、第二代校長の荻生先生と並んで、二つの胸像は旧正門入り口の右奥に存在したが、昭和11年千葉大学病院建設にあたり、障害となるため現在の位置に移されたものと思われる。しかし、第二次大戦時に、政府からの要請で千葉大学病院も金属の供出を求められ、リストの中に二つの胸像も含まれていた。その供出リストも領収書も、今回の資料から発見された(写真4)。

その後、なぜか、台座は二つのみが残されている。二つのレリーフ像は1960年医学部創立85周年記念においてゐのはな同窓会が寄付したものである。私たちは、先人の多大な努力で150年の長きにわたり築きあげられてきた千葉大学医学部を礎に存在している。私たちはその歴史と伝統に支えられて、医学生として素晴らしい環境で教育を受け、研究者として

追悼

学長 中山俊憲 先生

謹んで追悼の意を表します

(追悼文は20面に掲載)

医師として活躍し社会貢献できている。150周年記念にあたり、田邊政裕先生(昭49)が千葉医学の詳細な歴史年表を作成した。その努力は敬服に値する。同時に私たちはその150年の「歴史年表」の右端にすることも忘れてはならない。千葉大学医学部も亥鼻キャンパスも、新しいものと古いものが混じり合いながら未来永劫続いて行くことは間違いない。

幸いにも高村光雲作の塑像が発見されたことにより、初代校長の胸像が完全復元できることになった。明治44年の胸像と同じものを見ることができるのは美術史的にも興味深い。しかしながら、胸像再建に反対の人もいた。「この時代に銅像なんて古臭い」「小学校の校庭にある二宮尊徳像を思い出す」「銅像なんて今更何だ」など批判もある。失われた胸像の再建は、ただ懐かしむためのものではない。創立150周年にあたり、千葉医学の貢献者であるが歴史の中で失つたその胸像を復活させることで、先人たちの功績をたたえ、私たちが次の世代にバトンを託し、未来の千葉医学の発展を祈る企てと考えていただければありがたい。毎年新入生が記念講堂において入学式を迎える。新入生はこの小道を通りながら胸像を見て何を感じとってくれるだろうか。私たちは、彼らが希望に燃えた次世代の千葉医学の担い手となることを願っている次第である。

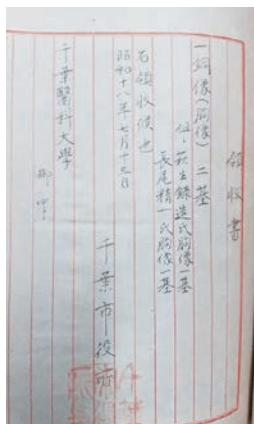
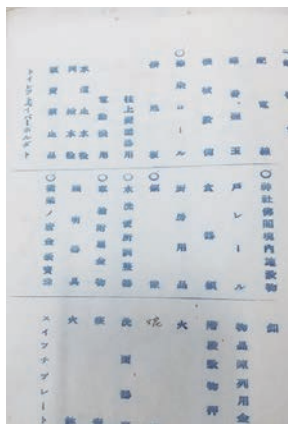


写真4 金属供出リスト(銅像を含む)と銅像二基の領収書

千葉大学医学部創立150周年記念文集
原稿募集のお知らせ
「日本館の思い出」

千葉大学医学部ゐのはな同窓会
会長 吉原俊雄

昨年は同窓会の企画、動画DVD「千葉大学医学部旧本館85年の記憶」を制作し、同窓の方々にご覧いただいております。

令和6年には千葉大学医学部創設150周年を迎えます。

そこで、同窓会では記念文集(写真含めた)、テーマ「日本館の思い出」の制作を進めています。ご多忙の毎日と存じますが、旧本館(旧病院)に過ごされた頃の思い出などご自由に執筆頂ければと思います。短文、長文、形式は問いません。奮ってご投稿ください。

投稿要項

- ・募集締め切り：締切期限を延長いたします。
- ・字数：制限なし
- ・タイトル：自由
- ・旧本館スケッチや絵画、医局時代の写真とその説明文等
- ・詩、短歌、俳句など旧本館(旧病院)に関わるもの

投稿先

千葉大学ゐのはな同窓会事務局
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内
TEL: 043-202-3750 FAX: 043-202-3753
E-mail: info@inohana.jp

※郵送、メール、FAX いずれでお送りいただいても結構です。

千葉大学医学部旧本館 85年の記憶 (DVD) が千葉日報で紹介されました。

千葉日報 2023年9月24日掲載



昭和初期の病院建築として貴重な千葉大学旧医学部本館(写真は顕原准教授提供)

千葉大旧医学部本館

顕原准教授(建築史)は千葉の生、生かしていく方



泰山タイルが床に敷き詰められた玄関

閉館2年、保存求める声

(17面に続く)

「東洋一」の病院 後世に

2021年秋に閉館した千葉大学旧医学部本館の保存を求める声が高まっている。1936(昭和11)年に同医学部の前身・千葉医科大学の付属病院として建設された、泰山タイルや大理石を多用した重厚な構造的な魅力を兼ね備えた、歴史的な価値を有する建築物として、閉館2年、保存を求める声が高まっている。

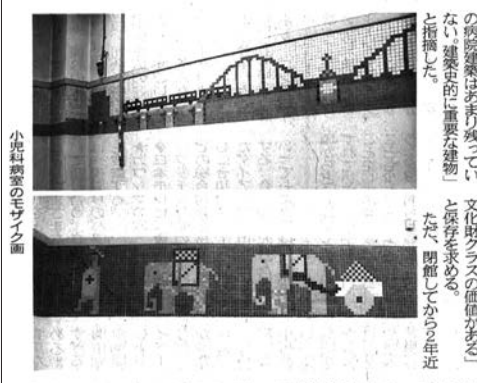
千葉大旧医学部本館



3階の会議室。床は寄せ木細工で、天井には和モダンな照明器具が残る(写真は顕原准教授提供)

豪華内装 患者配慮も
(1冊から続く)
顕原准教授が特に注目するのは、療養生活を送る患者への配慮。風通しは清潔な床は寄せ木細工。階段の手すりにはイタリア産大理石を使用。豪華な内装。デザイン性の高い照明器具も残っている。1930年のロンドン海軍軍艦条約では軍艦の削減が迫られ、浮いた予算が充てられたとの逸話が「裏付ける資料は見つかっていない」(顕原准教授)。

「文化財クラスの価値」 同窓会活用要望



小児科病室モザイク画

「文化財クラスの価値」 同窓会活用要望
顕原准教授は「閉館2年、保存を求める声が高まっている。1936(昭和11)年に同医学部の前身・千葉医科大学の付属病院として建設された、泰山タイルや大理石を多用した重厚な構造的な魅力を兼ね備えた、歴史的な価値を有する建築物として、閉館2年、保存を求める声が高まっている。」

千葉日報 2023年10月6日掲載

新学部の建設に や電車などのモザイク画を配し
(17面に続く)
顕原准教授が特に注目するのは、療養生活を送る患者への配慮。風通しは清潔な床は寄せ木細工。階段の手すりにはイタリア産大理石を使用。豪華な内装。デザイン性の高い照明器具も残っている。1930年のロンドン海軍軍艦条約では軍艦の削減が迫られ、浮いた予算が充てられたとの逸話が「裏付ける資料は見つかっていない」(顕原准教授)。

千葉大学医学部旧本館 85年の記憶 (DVD)

DVD cover for 'Chiba University Faculty of Medicine Old Main Building 85 Years of Memory'. Includes release date (October 8, 2023), price (¥1,980), and a synopsis of the building's history.

就 任 挨 拶

千葉大学大学院医学研究院

脳神経外科学 教授

樋口 佳 則 (平4)



令和5年(2023年)

11月1日付で、千葉大学大学院医学研究院脳神経外科学教授を拝命いたしました。これまで御指導賜りました同門、おのほな同窓会、そして千葉大学の多くの先生方に、心より感謝申し上げます。

私は1992年千葉大学医学部を卒業後、山浦晶先生(第二代教授、現名誉教授)が主催する脳神経外科学教室に入局し、君津中央病院、松戸市立病院(現松戸市立総合医療センター)で臨床経験を積ませていただきました。1996年から千葉大学大学院医学研究院で、実験頭部外傷の基礎研究、さらに鈴木信夫先生(現名誉教授)が主催する第二生化学教室にてDNA修

復に関する研究をいたしました。その後、機能的脳神経外科ならびに定位的放射線治療の研究を目的として、1999年11月に米国Loma Linda大学、Duke大学で、機能的脳神経外科、陽子線治療に関する基礎研究を行いました。米国での経験は、帰国後の機能的脳神経外科、定位放射線治療領域での研究に大きく貢献しております。2004年より千葉県循環器病センターにて、定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)、ならびに不随意運動症に対する脳深部刺激療法を開始しました。2007年からは、佐伯直勝先生(第三代教授、現名誉教授)が主催する脳神経外科教室に戻り、機能的脳神経外科、脳腫瘍に対する包括的な治療アプローチ、定位的放射線治療を中心とした研究、診療を行って参りました。

機能的脳神経外科のひとつである脳深部刺激療法は、パーキンソン病などの不随意運動症への治療として行われており、千葉大学医学部附属病院は、県内唯一の定位脳手術技術認定施設(全国37施設)となっております。これまで、主にパーキンソン病に対する脳深部刺激療法で、脳神経内科、精神神経科、リハビリテーション科などの御協力と御指導のもと多く著論文を報告させていただきました。近日、難治性てんかんへの保険適用が見込まれており、neumonodulationによる治療適応は広がっており、注目されている分野であります。

転移性脳腫瘍に対する定位的放射線外科治療(stereotactic radiosurgery, SRS)は、米国、欧州では転移性脳腫瘍の治療個数の上限が4個とされ、本邦のSRSによる転移性脳腫瘍の治療状況とは大きく異なるものでした。寡数個の転移巣と多数個の転移巣の非劣性を証明することを目的としたJLCK0901研究を2009年の立ち上げから関わることとなりました。その結果(JLCK0901, *Lancet Oncol.*, 2014)は、多くの転移性脳腫瘍の論文、さらに国内外のガイドラインに引用されておりあります。

当教室は1971年に牧野博安教授のもと開設され、第四代教授・岩立康男先生へと引き継がれた歴史ある脳神経外科教室です。この素晴らしい伝統を引き継ぎ、千葉大学の理念である「つねに、より高きものをめざして」、未来に繋がる研究と

千葉大学

国際高等研究基幹・災害治療学研究所

災害情報解析研究部門 教授

小野寺 淳 (平18)



令和5年(2023年)

7月1日付で千葉大学国際高等研究基幹・災害治療学研究所・災害情報解析研究部門の教授を拝命しました。災害治療学研究所は、医学系総合研究棟に隣接する新しい施設です。災害に関する研究所は、いくつかの国立大学に設置されていますが、本学のように、災害時の医療アウトカム、特に慢性期のケアを主眼とした共創的研究施設は日本で唯一であり各方面からの期待を感じるとともに、今後の展望に胸を膨らませております。

私は、高校時代は地学、物理、数学などの授業に興味があり、将来は宇宙関係の研究者になりたいと思っておりました。高校卒業後は東京大学に進学しましたが、教養課程を経て専攻を選択する際、夢であった宇宙研究のハードルのあまりの高さに自信を失い、化学や生命科学の方に興味をシフトしてまいりました。そのような経緯があった頃、千葉大学医学部の学士編入制度(MD-PhDコース)の募集要項を見つけて、「医学を学んで世の中の役に立つ研究がしたい」という思いが湧き上がりました。そこで、大学4年の夏に千葉大学医学部の学士編入試験を受験し合格し、2002年に工学部化学学生命工学科卒業後、千葉大学医学部3年に編入すること

ができました。医学部に進学してから、基礎研究の教室である谷口克先生(現理化学研究所)のラボに通い、免疫学を学び始めました。その後、中山俊憲先生(前千葉大学学長)が免疫発生学の教授になられてから、免疫とは何か……という問いに取り憑かれ、基礎研究にのめり込んでいきました。医学部卒業を控え、2006年に医師国家試験に合格しましたが、免疫の奥深いところを探求したいという思いに取りつかれた自分には、医師として初期研修をするという選択肢はなく、そのまま大学院博士課程(免疫発生学)に進学しました。

今振り返ってみると、若干の不安と迷いの中で思い切った選択をした背景には、「今一番やりたいことを最優先する」という自分の信念がありました。当時は、初期研修必修化等の医学教育変革期の3年目の学年に該当し、初期研修をしなかった卒業生がいなかったため、前例のない大胆な選択でした。進路決定に関しては、中山俊憲先生はもろろんのこと、田邊政裕先生(医学教育学前教授)、中谷晴昭先生(薬理学前教授)にご相談いたしました。先生方は皆、大変びっくりされ、医者の道を進んでからでは？という助言をいただきましたが、最後には私の決意を理解してくださり、千葉大学医学部初の選択をした私を、力強く後押ししてくださいました。先生方のお気持ちは、その後の私の人生においても忘れることができない強いメッセージとして心に残っています。

博士課程在学中は、免疫発生学教室の先輩である本橋新一郎先生(現免疫細胞医学教授)、木村元子先生(現実験免疫学教授)、平原潔先生(現免疫発生学教授)に研究に関するアドバイスをたくさん頂き、2010年3月に大学院を修了し、引き続き免疫発生学で研究を継続しました。ちょうどその頃次世代シーケンスを使った遺伝子発現解析が日本でも行われるようになり、私は免疫のエピゲノム解析という少しマニアックな分野を専門としており、ヒストンや塩基のメチル化修飾について研究をしています。この分野は次世代シーケンス解析と非常に相性がよく、独自のアルゴリズムを作ったりして夢を持った研究生生活を送ることができました。その後、当時学長をされていた

徳久剛史先生のお力添えで、2017年に米国ラホヤ免疫研究所に留学し、Anjana Rao先生の研究室でTEF1酵素の研究に従事しました。今回日本で初めて設立される災害治療学研究所では、所長の田中知明先生、副所長の三木隆司先生のご指導のもと、免疫のエピゲノム研究をさらに発展させるだけでなく、環境や災害ストレスがこれらの分子基盤を介して人々の病気や健康に与える影響など、新たなテーマに挑戦していきたいと思っています。

学際色豊かな千葉大学には、環境リモートセンシング研究センターの気象学、地震学など情報工学系の素晴らしい研究者が多くいらっしゃるので、異分野融合によって新たなデータサイエンスの境地を切り開き、世界をリードする研究を推進したいと決意を新たにしております。

心臓カテーテルの基礎を学び、冠動脈インターベンション(PCI)を専門とするきっかけとなりました。通常であれば千葉大に戻ることに予定されていましたが、PCIの研修を続けたいと考え、1998年から君津中央病院に勤務しました。当時、千葉県内のPCIの技術レベルは高くなかったため、技術向上を図るために2000年からは倉敷中央病院で日本のPCIの第一人者である故光藤和明先生、門田一繁先生のもとでPCIの専門的な研修を積みました。

立ししたためPCIに関連する合併症なども多く経験しましたが、困難を乗り越えました。2011年に小林欣夫教授が循環器内科教授に就任し、千葉大学医学部附属病院冠動脈疾患治療部助教として勤務しました。2014年には小林教授の指導の下で、45歳という年齢で医学博士の学位を取得し、それに伴い冠動脈疾患治療部講師・副部長となりました。カテーテル治療の学会での活動も盛んになり、TOPIC(心血管インターベンションライブの学会)でPCIライブオペレーターも務めました。東京ライブでは君津中央病院と千葉大学医学部附属病院からPCIライブ中継を行いました。また、海外(インド、中国、ベトナム)から研修者を集めてのPCIワークショップを開催したり、日本国内や海外(中国、インド)に出張してPCIの指導を行っています。特に君津中央病院での経験を生かしてPCI合併症のペイルアウトの専門家として多くの講演や指導を行っています。このように千葉県内のPCIの技術レベル向上に大きく貢献できたことを自負しております。

院は2020年に開院し、2022年からは642床の大病院本院となりました。循環器内科は医師12名が在籍しており、そのうち千葉大学循環器内科からは5名の医師が赴任しています。心カテ室もゼロからのスタートでしたが、2022年にはPCIが年間242件まで増加しました。その結果、3年という短い期間で日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)研修施設になることができました。今後は、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)実施施設になることを目指しています。また、2026年にはCVIT関東甲信越地方会を主催する予定となっています。

しており、1、2年生の講義は全て英語で行われ、国際的に通用する医師の養成を目指しています。日本ではPCIはもう成熟された手技となっていますが、アジア各国ではまだ発展途上です。今後は千葉県内だけでなく、

国際医療福祉大学

医学部 循環器内科学 教授
成田病院 循環器内科 教授



藤本善英(平5)

講座特任教授を兼任しております。この就任から3年が経過し、投稿が遅れてしまったことをお詫び申し上げます。

1993年に千葉大学医学部を卒業し千葉大学第三内科に入局しました。故稲垣義明初代教授が退官されて、増田善昭教授が教授に就任された年でした。1994年からは長生病院で地域医療を学び、1996年から多摩南部地域病院で

2020年4月に国際医療福祉大学成田病院循環器内科教授、2020年9月に国際医療福祉大学医学部循環器内科学教授を拝命しました。2020年4月からは千葉大学大学院医学研究院不整脈先端治療学寄付

心臓カテーテルの基礎を学び、冠動脈インターベンション(PCI)を専門とするきっかけとなりました。通常であれば千葉大に戻ることに予定されていましたが、PCIの研修を続けたいと考え、1998年から君津中央病院に勤務しました。当時、千葉県内のPCIの技術レベルは高くなかったため、技術向上を図るために2000年からは倉敷中央病院で日本のPCIの第一人者である故光藤和明先生、門田一繁先生のもとでPCIの専門的な研修を積みました。

立ししたためPCIに関連する合併症なども多く経験しましたが、困難を乗り越えました。2011年に小林欣夫教授が循環器内科教授に就任し、千葉大学医学部附属病院冠動脈疾患治療部助教として勤務しました。2014年には小林教授の指導の下で、45歳という年齢で医学博士の学位を取得し、それに伴い冠動脈疾患治療部講師・副部長となりました。カテーテル治療の学会での活動も盛んになり、TOPIC(心血管インターベンションライブの学会)でPCIライブオペレーターも務めました。東京ライブでは君津中央病院と千葉大学医学部附属病院からPCIライブ中継を行いました。また、海外(インド、中国、ベトナム)から研修者を集めてのPCIワークショップを開催したり、日本国内や海外(中国、インド)に出張してPCIの指導を行っています。特に君津中央病院での経験を生かしてPCI合併症のペイルアウトの専門家として多くの講演や指導を行っています。このように千葉県内のPCIの技術レベル向上に大きく貢献できたことを自負しております。

院は2020年に開院し、2022年からは642床の大病院本院となりました。循環器内科は医師12名が在籍しており、そのうち千葉大学循環器内科からは5名の医師が赴任しています。心カテ室もゼロからのスタートでしたが、2022年にはPCIが年間242件まで増加しました。その結果、3年という短い期間で日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)研修施設になることができました。今後は、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)実施施設になることを目指しています。また、2026年にはCVIT関東甲信越地方会を主催する予定となっています。

しており、1、2年生の講義は全て英語で行われ、国際的に通用する医師の養成を目指しています。日本ではPCIはもう成熟された手技となっていますが、アジア各国ではまだ発展途上です。今後は千葉県内だけでなく、



秋田大学
機能展開医学系心臓血管外科学講座 主任教授
中嶋博之(平7)

2023年11月1日付で秋田大学機能展開医学系心臓血管外科学講座主任教授を拝命致しました。

私は、1995年(平成7年)千葉大学医学部卒業後、中島伸之教授率いる千葉大学第一外科に入局し、附属病院と長野県立須坂病院で計2年間外科研修を行いました。1997年から大阪の国立循環器病センター(国循)で心臓血管外科医としてのスタートを切りました。レジデント3年、専門修練医2年を終了し、その後成人心臓グループスタッフ医師として2010

2023年3月に初代の卒業生を送り出したまだ新しい大学です。アジアからの留学生が1学年20名在籍

年末まで約8年半勤務いたしました。国循時代当初は、耐性菌による術後感染症や医療事故が社会問題化するなど、手術成績も不安定でしたが、その後、集学的な医療チーム体制による劇的な効果を学び、医療安全に対する視点や姿勢を身につけることができました。心臓血管外科領域では、1999年に脳死移植が開始となり、本邦2例目の心臓移植には助手として参加することができました。成人心臓領域では、オフポンプ冠動脈バイパス術や僧帽弁形成術が黎明期から標準的術式となるとともに、開心術の安全性が著明に向上した時期で、2004年には本邦初のダヴィンチ導入にも携わらせていただきました。

震災直前の2011年1

月には、心臓移植施設である埼玉医科大学国際医療センターに准教授として赴任し、大阪時代からの重症心不全や心臓移植に継続して関わる事ができました。2017年に教授となり、以降は術者としての経験も積むことができました。また、ハイボリウムセンターとしてさらに弁膜症や冠動脈バイパス術の手術経験を重ね、若手の指導を行うと同時に、独自の手法で安全な低侵襲心臓手術の確立を目指してまいりました。

臨床研究に際しましては、取って難しいテーマに取り組みことを意識してきました。冠動脈バイパス術に関しては、近年内胸動脈や機骨動脈といった動脈グラフトを使用しますが、このグラフト内の血流の強さを4段階に評価し、ほぼ10年間追跡して、グラフトの長期開存性と血流評価との関連性を実証するとともに、効果的な動脈グラフト形態と使用方法について、データに基づいたロジックを確立しました。また、数値化できないため都市伝説のようになっていたテーマとして、冠動脈枝の灌流域の大きさとグラフト血流、グラフト開存性が密接に関連していることを明らかにし

た。さらには、人工心肺を使用しないオフポンプ手術によって血管の血流調節能が保持されることが、術後合併症軽減の機序のひとつであることも報告しております。こういった成果から、循環器領域研究史上最大とされる冠動脈バイパスに関する欧米を中心とした国際的な多施設ランダム化試験であるROMA研究に、埼玉医科大学国際医療センターは本邦で最初に参加することができ、さらに、安定狭心症治療と川崎病の両ガイドライン執筆の機会もいただきました。弁膜症につきましましては、僧帽弁狭窄症については、心房細動合併例では、通常循環器内科で行うカテテル治療と比較して、開心術による交連切開もしくは人工弁置換術とメイズ手術を同時に行うことにより、塞栓症の回避に有用であることを報告しました。また、埼玉では、僧帽弁閉鎖不全症における左心室と僧帽弁輪、拡大した左心房などの3次元的な構造の特徴を調べ、弁形成後の構造的な変化と逆流の再発の関連性や形成術後の再発機序について纏めました。新しい手術方法として、三心房心や部分肺静脈灌流異常などの先天性心疾患に

合併する心房細動へのメイズ術式や、人工弁周囲逆流手術の再発予防の工夫や閉塞性肥大型心筋症に対する弁形成の手術技術を考案し報告してきました。個々の患者さんに最適な手術、外科治療を提供するべく、外科医としての研鑽も続けてまいります。

これまで、千葉大学医局を離れてから26年以上も自由にさせていたいただいた間にも、臓器制御外科学宮崎勝教授に学位をいただき、心臓血管外科松宮護郎教授、増田政久同門会長をはじめ、むのはな同窓会、同門の先生方から数多の温かい援護や御指導をいただきましたこと、この機会を借りて深く感謝申し上げます。

心臓血管外科は、地域に根差して、とことん患者さんに寄り添い尽くす診療科といえるかと思えます。私は、東京出身ではありますが、この秋田の地におきまして、これまでの臨床経験を生かして若手を育成し、地域に密着し地域の気候や実情にあった心臓血管外科チームを作り、施設間の連携や症例集約などのシステムを構築していきたいと考えております。むのはな同窓会の先生方には、今後も

自治医科大学

外科学講座（小児外科部門） 教授

照井慶太（平10）



この度、令和5年（2023年）10月1日付で自治医科大学外科学講座（小児外科部門）教授を拝命致しました。これまで御指導、御支援下さった皆様に謹んで感謝申し上げます。

私は平成10年（1998年）に千葉大学医学部を卒業し、大沼直躬教授の率いる小児外科に入局致しました。千葉大学医学部附属病院、千葉県こども病院、松戸市立総合医療センター、沼津市立病院で研修を行った後、2002年に大学院に入学し、国立成育医療研究センター研究所移植・外科研究部（鈴木盛一先生）にて肝再生に関する基礎研究を行いました。その後は吉田英生教授、菱木知郎教授のご指導の下、千葉大学医学部附属病院、松戸市立

変わらずご指導いただきますよう、何卒よろしくお願

い申し上げます。

総合医療センターにて研鑽を積んでまいりました。

小児外科という領域は小児・外科・救急・周産期医療の各領域に関連し、また、多くの臓器を対象とする（General surgery）です。一方、依然予後不良な希少疾患が存在します。私は中でも胆道閉鎖症、腸管不全、先天性横隔膜ヘルニアをターゲットとして臨床研究を行ってまいりました。希少疾患の研究は単施設では限界があり、多施設での共同研究が欠かせません。今後も国内外の研究者と協力して重篤な疾患をもつ子どもたちのため、邁進していきたいと考えております。引き続きご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

自治医科大学は全国の都道府県により1972年に設立された大学で、昨年創立50周年を迎えました。地域医療に貢献する医育機関として有名ですが、もうひとつの特徴として大学敷地内に小児病院（とちぎ子ど

千葉県がんセンター

病院長 藤里正視（昭59）



令和5年4月1日付けで千葉県がんセンター病院長に就任いたしました。藤里正視です。定年退職まで残り1年という中で、この歴史ある千葉県がんセンターの舵取りを任せられるという大役を頂き、身の引き締まる思いです。また千葉県がんセンターは個人的にも大変関わりが深く、愛着のある場所でもありますので、その発展に微力ながらも貢献できますよう努力してまいります。

私は昭和59年（1984年）に千葉大学を卒業し、千葉大学麻酔科学教室（米澤利英教授）に入局いたしました。その後、千葉県がんセンターや国立がんセンター中央病院（現国立がん研究センター中央病院）で麻酔科医として経験を積む中で、がん患者のターミナルケア（当時は緩和ケアという言葉はなかった）に出会いました。ことに国立がんセンターでは、水口公信先生（のちの千葉大学麻酔科教授）と平賀一陽先生という日本の緩和ケアの黎明期を築き上げた大先輩にご指導いただき、その後の医師人生の指針をいただきました。

も医療センター・病床数137床）を擁することが挙げられます。欧米ではよくみられる大病院附属の小児病院ですが、本邦では自治医科大学のみです。小児医療従事者にとっては、大病院でのアカデミックな仕事と小児病院での高度小児外科医療を効率よく行う

ことができるとは思いません。この恵まれた環境を活かして、小児外科学の発展のため精励してまいります。

むのはな同窓会の皆様には、今後とも変わらぬご支援を頂きますよう、お願ひ申し上げます。

再入職した千葉県がんセンターでは麻酔業務の傍ら、緩和ケアラウンドや試験的な訪問診療を行うなど、千

葉県がんセンター緩和ケアの先駆けとして独自の取り組みを行いました。残念ながら、その後再度がんセンターを離れざるをえない状況となり、苦渋の決断でしたが、いったんは緩和ケアから距離を置くことになりました。

50歳を迎える年にあたり、麻酔科を離れ緩和ケアの臨床医となることを決意し、千葉県がんセンターに3度目の入職を打診しました。がんセンターでは新たに緩和医療科が設立され、緩和ケア病棟の建設やそれを中心とした在宅療養支援のシステムが構築・機能しており、私はすっかり浦島太郎のような立場でしたが、渡辺敏和と医療科部長、坂下美彦先生は温かく迎え入れてくださいました。お二人には深く感謝申し上げます。しかし、一緩和ケア医たらんと欲した思いとは裏腹に、麻酔科医不足や一連の不祥事対応、千葉県臨時医療施設(COVID-19専門施設)設置・運営などの病院事情に翻弄され、次第に管理職の立場へと移行していきま

詳しくない自分ですが、千葉県がんセンターが「心と体に優しいがん医療の提供」を理念とする以上、私にも貢献できることがあると信じます。

千葉大学健康疾患オミクスセンター

センター長 金田 篤志 (東京大・平6) (分子腫瘍学 教授)



令和5年10月1日、千葉大学に「健康疾患オミクスセンター」(英語名Health and Disease Omics Center、略称HADOC)が発足しました。千葉大学のミッションであり大学院医学研究院がブランドデザイン將來構想においてフロンティアとして掲げ推進するがん・免疫の治療学研究において、本学が所有する膨大な医学データ、環境衛生学データ、生体リソースを系統的に取得・解析し、疾患状態・健康状態を科学的・社会的実践的に解き明かすため、「疾患・未病の多階層データ解析による健康長寿の実現」事業を遂行する組織として設置されました。

じ、緩和ケアマインドで病院運営に臨んでいきたいと考えています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

我々の生体は健康な日常生活においても常に環境ストレスに曝されており、生体は細胞間・組織間クロストークしながら適応・生存しています。通常は「健康なエピソード」で環境に適応しつつも、正常細胞・組織に徐々に蓄積するエピゲノム異常は疾患発症リスクを上昇させ、「未病」とも呼ばれる疾患の高リスク状態となっています。そしてさらなる環境ストレスによつて疾患を発症することになります。これら生体に蓄積した多次元オミクス異常と疾患リスクを解明する健康疾患科学のハブとして研究開発、政策提言、人材育成を遂行するセンターです。

門、健康環境学部門)、2系統の出口部門(社会部門、政策部門)を多角的、分野横断的に形成し、統合戦略部門が複雑な異分野研究の開発戦略を統合・指揮します。分野横断型の共創ネットワークで次世代ヘルスケアに貢献し、疾患未病対策・健康長寿戦略を推進します。例えば重要な研究開発目標の

千葉産業保健総合支援センター

所長 中田 暁 (昭61)



2023年4月1日付で独立行政法人労働者健康安全機構、千葉産業保健総合支援センター所長を拝命致しました。同センターは産保(さんぼ)センターとも呼ばれており、なじみのある先生方も多いかと思いますが、ご存知ない先生方もおありかと思っております。簡単に紹介致します。

の二つであるがんにおいては、がん一次予防などの健康長寿戦略が社会的にも経済学的にも強く求められている研究開発課題ですが、がんリスクゼロなどロバスタなヘルスケアを目指す国際連携ハブとして社会に貢献し、日本発・千葉大学発の未病・ヘルスケア戦略を開発・発信していききたいと思っております。

で豊富な知識をもつ相談員だけでなく、メンタルヘルス、労働衛生関係法令、労働衛生工学を専門にする相談員もおり、来所・電話・メールによる相談を受け付けております。産業医業務を行っておられる先生方で業務に不明点がある場合など、気軽にご利用ください。さて、私は1986年に千葉大学を卒業し、呼吸器内科に入局し、研修医生活がスタート致しました。同年夏には栗山喬之教授が就任され、その下で診療、研究業務等、ご指導を賜りました。船橋中央病院勤務を経て大学に戻り、肺癌患者のQOLの研究を行っておりました。1994年に後期出張に出る際、住友化学の産業医というユニークな勤務先を教授から提示されました。これが私が産業保健の領域に足を踏み入れるきっかけとなりました。その後1995年から3年間、シンガポール日本人会診療所に勤務するという活動の場を与えて頂き、現地においても在留邦人の産業医的な役割も果たしていただきました。

シンガポールのポストには何人もの医局員が就き、貴重な経験をjして帰国しております。私は帰国後再び住友化学の産業医となり、2001年以降は産保センターの相談員を兼務しておりました。2004年には長尾啓一教授が主宰される総合安全衛生管理機構に活動の場を与えて頂き、講師、准教授として千葉大学の産業医業務を行っておりました。長尾先生の教育・研究・診療にあたる姿は誠に真摯で、今でもお手本といたしております。先生には研究面でも貴重なご指導を賜り、学位取得ができたのも先生のお陰と考えております。今回、能川浩二名誉教授、千葉県医師会のご推薦をいただき、所長という大役を仰せつかりました。これまでの経験を生かし、産保センターの運営にあたって参る所存です。のほな同窓会の先生方には一層のご指導、ご助力を賜りますようお願い申し上げます。



各地の は な 会 だより

山梨の は な 会

令和5年度

山梨の は な 会 総会

令和5年度山梨の は な 会総会が令和5年8月3日、甲府市のホテル談露館にて9名の先生方にご参加いただき開催されました。コロナ感染症の蔓延のため4年ぶりとなる開催です。3名の先生が急遽欠席となり大変残念でありました。

始めにこの4年間でご逝去されました、大久保昭人先生(昭27年専卒、令和2年10月御逝去)、小林清房先生(昭27年卒、令和4年10月御逝去)、溝部孝二先生(昭27年専卒、令和5年3月御逝去)の3名の先生方のご冥福を祈り黙とうを捧げました。

会の中澤肇会長の4年ぶりに対面での総会が開けてとても良かったとの挨拶で始まりました。引き続き会長からの提案で、今まで本会にはなかった会則制定の件、会報発行の件について説明があり審議を行いました。両提案について色々な意見が出ましたが全会一致とならず今回は保留事項と

なりました。

この4年の間に2名の同門の先生が山梨大学医学部の教授に就任されました。櫻井大樹先生(平9年卒)が頭頸部耳鼻咽喉科教授に、森口武史先生(平9年卒)が救急集中治療医学講座教授に就任され、本日の会はお二人の就任披露とお祝いを兼ねて計画されました。残念ながら森口先生はご出席予定でしたが急用にて欠席となったため、櫻井先生に記念品と花束の贈呈を行いました。ご挨拶では山梨大学と千葉大学の耳鼻咽喉科は関係が深い事、大きな頭頸部手術に加え内視鏡を使った小切開甲状腺手

術を始められた事、またアレルギーセンター長を兼任された食物アレルギーも対象としていることを伺いました。

次に本日最年長の清水天先生(昭39卒)に乾杯のご発声とご挨拶をいただきました。先生は10年前に当会の先輩より引き継がれた老健施設で既に180名の看取りをされ現役として活躍されており本当に頭の下がる思いです。

続いて参加者からの近況報告を行いました。中でも五十嵐夏彦先生からは教授就任されたお二人とは同級生であり山梨で3人が再開できた事は運命じみたもの



を感じるとの事を伺いました。古屋好美先生からは4年前のコロナ感染開始とほぼ同時期に甲府保健所長となり今年3月の退任までコロナ感染対策で大変ご苦労された事を伺いました。

次いでのはな同窓会理事の鶴田がこの4年間の理事会でのメモリアル事業等の話題を報告しました。やはり旧病院への関心が高い事をお持ちでない先生には是非寄付をお願いしました。ホテルマンにプレッシャーをかけられつつ時間オーバーして歓談を楽しみ、最後に出席者全員の写真撮影を行いました。

閉会となりました。近年は新会員の加入が少なく高齢化が進み会員数は15年ほどで約2/3の24名となつてしまいました。少ないからこそ総会には是非多くの先生方に御参加いただきお目にかかりたいと思います。

(鶴田好孝、細田和彦) 写真右から

前列：古屋好美(昭53)、中澤肇(昭52)、櫻井大樹(平9)、清水天(昭39)、花輪孝雄(昭45)
後列：五十嵐夏彦(平9)、大西洋(昭63)、鶴田好孝(昭54)、細田和彦(昭58)

中京の は な 会

令和5年度

中京の は な 会 を 開 催 し て

中京の は な 会 は、千葉大学のはな同窓会の中京地区支部(愛知県、岐阜県、三重県)として活動しています。1985年に松井宣夫先生(昭38卒)が千葉大学整形外科助教授から、名古屋市立大学整形外科の教授として赴任されてから、長く会長をされました。例年夏に総会を開催しておりましたが、新型コロナウイルス感染症のため3年間開催することができませんでした。まだ終息したわけではありませんが、新型コロナウイルス感染症が5類となり、本年久しぶりに開催することとなりました。また、長きにわたり会長をお勤めいただいた松井先生のご退任することとなり、総会を松井会長の退任祝賀会として行いました。

8月30日、名古屋観光ホテルの楠の間で行いました。(次面に続く)

写真右から
前列：森田(石井)弘之(昭56)、松井宣夫(昭38)、山口英明(昭50)、剣持敬(昭58)

後列：會田直弘(平21)、幸部吉郎(平12)、吉良楨一(令5)、三好幸次(昭63)、小林豊(平12)、浦島哲郎(平2)、島田佳明(昭62)、陶山謙一郎(平22)、栗原啓(宮崎医大、平15)、金子慎

二郎(平9)、伊藤泰平(筑波大、平6)、渡邊栄三(平9)、久松英治(筑波大、平12)、濱口(永田)典子(昭54)、吉野薫(昭60)、松井恵二(松井宣夫先生ご子息)



(前面の続き)

名古屋観光ホテルは、皇室もお泊りになる愛知県で最も由緒あるホテルです。第一部は、松井先生を引き継ぎ、会長を拝命いたしました私、剣持敬(昭58卒、藤田医科大学病院臓器移植科教授)より、「藤田医科大学での移植医療・千葉大学移植班の展開」のタイトルで記念講演を行いました。第二部は松井宣夫会長退任式典とし、私からと松井会長を事務局長として長く支えてこられた森田弘之先生(昭56卒、森田シヤントアミロイド治療クリニック院長)のお礼の言葉に続き、吉野薫先生(昭60卒、あいち小児保健医療総合センター泌尿器科部長)より花束と記念品の贈呈が行われました。第三部の懇親会では参加の皆様より松井先生への感謝の言葉と近況報告をしていただきました。今年

は、最近愛知県、岐阜県に赴任された先生方も含め21名の参加があり、3年ぶりということもあり、大変盛り上がりしました。新会長として松井先生を引き継いだ私ですが、松井先生には、千葉大学医学部の学生時代に講義やポリク

りでお世話になりました。当時の整形外科の井上駿二教授の近づきたいオーラに対して、松井助教教授は堂々とした体格で、一見近寄りたがたい雰囲気もあつたのですが、実は大変優しく親切に教えていただいた記憶があります(もちろんオーラもものすごいものがありました...)。その後名古屋に移られたことは知っておりましたが、私も2012年に藤田医科大学に赴任し、森田先生から連絡があり中京ののはな会に入れていただきました。総会で当時と変わりないお元氣な松井先生と何十年ぶりに再会し、大変懐かしくまた嬉しく思いました。千葉大学から離れて、地方で仕事するときに地元の千葉大卒の先生と話す

た医学を實踐し、地域として日本の医療の発展に寄与すること、次世代、次々世を担う医学生教育に生かしてゆくことが、ののはな同窓生としての私の使命であると思っております。そのためにも、中京ののはな会を盛り上げてゆく所存ですので、引き続き千葉大学のはな同窓会の先生方のご協力をよろしく願います。(剣持敬)

埼玉県のはな会

令和5年度

埼玉県のはな会同窓会総会 千葉大学医学部のはな会同窓会埼玉支部総会が令和5年10月22日に浦和のロイヤル・パインズ・ホテル



で4年ぶりに対面形式で開催された。前3回はコロナ禍で中止されていたのです。この4年間の間に逝去された22名の先生方に黙祷を捧げ、支部長の吉川廣和先生(昭40)が4年間の総括を報告された。この中で、群馬県のはな会の件が報告された。群馬県のはな会

は会員の減少が著しいために同総会の維持が困難になっていたので、今後は隣県の埼玉県のはな会と合同でののはな会総会を開催させて欲しいとの申し出があった、との事でした。この報告に幾つかの質疑・応答がありました。最終的には埼玉県・群馬県のはな会が合併して、今後は合同でののはな会総会を開催するとの承認がえられた。その結果、埼玉県支部規約の第4条を次のように改

定した。本会会員は、埼玉県または群馬県に在住もしくは勤務または入会を希望する千葉大学医学部のはな会同窓会会員をもって構成する。合併した群馬県のはな会には、現在の埼玉県の東西南北支部に加えて群馬支部として幹事を依頼する。全体の名称は、現在の千葉大学医学部のはな会同窓会埼玉支部のままとする。これに対して、群馬県のはな会同窓会前支部長の鈴木守先生(昭39、元群馬大学学長)の返礼がありました。群馬県のはな会の会員の人数は最近になり僅か11名になってしまい、絶滅危惧種あるいは絶滅種になってしまったと言う事で、隣県である埼玉県のはな会に合併の申し出をしたとのこと

写真右から
前列：松本生(昭36)、永田一郎(昭35)、加藤直也(昭61)、吉川廣和(昭40)、松尾幸治(平6)、鈴木守(昭39)、諏訪敏一(昭43)、濱陽高穂(昭45)
2列目：小川富雄(昭48)、赤井壽紀(昭43)、吉沢卓(昭53)、門山周文(昭51)、藤間泰(昭59)、大友一夫(昭46)、野口哲夫(昭48)、五月女直樹(昭49)、伊藤博(昭56)、土佐寛順(昭50)、3列目：平山信男(平8)、中島透(昭56)、吉富秀幸(平2)、杉浦俊之(昭63)、土合克巳(平3)、今野慎(昭62)、植松武史(昭55)、斎藤雅彦(平3)、門野源一郎(平6)

併の賛同を頂けたことに感謝いたします、との事で。そして、群馬県内の伊香保温泉には群馬大学が管理をしている温泉施設があり、そこは皇室の御用達の由緒ある温泉施設だそうで、是非ご利用下さいと仰っております。

講演の1題目は、松尾幸治先生(平6、埼玉医科大学医学部精神科学教授)の「睡眠薬の適正使用とフォア

ミュラリ」という演題の講演でした。ベンゾジアゼピン系の薬剤の問題を中心に講演してくださいました。このベンゾジアゼピン系の薬剤は、日本は世界で最大の使用量の国になっているとのことです。睡眠障害には、過覚醒型、リズム障害型、睡眠恒常性障害型に分類される。睡眠指導には、運動・有酸素運動、環境・遮光、食生活、十分な水分補給、カフェイン・禁煙、タバコ・禁煙、考え事・日中の問題を持ち込まない事等を行う事が必要であると強調されておりました。治療薬としてこのベンゾジアゼピン系の薬剤を処方する場合には、5つの弊害がある事を充分に理解した上で処方してくださいと言うことでした。その5つの弊害とは、①抑うつ症状をマスクしてしまう、②乱用の可能性が高い、③認知機能の低下や運動機能の抑制を起しやすい、④薬剤耐性(依存症)が出現しやすい、⑤脱抑制、です。使用方法としては、短時間作用の薬剤は使用しない。使用する場合は頓用にする。更に禁酒すべきである。ア

ルコール交差耐性があるからとの事でした。そして、この薬剤を中止するには長時間作用のものに変更しながら減薬をして行くことが必要である、と言うことと。一方、この薬剤を使用するとアルツハイマー病の発症が1.5倍に増えると言うことも留意する必要があります。と言うことでした。

アルコールに関しては、エタノール20gが1単位と換算されており、一日のアルコール摂取量は2単位が限度ということと。因みに350ml缶ビール(5%)では2本と言うことと。肥満の治療に努力すると肝脂肪は比較的早期に減少するが、皮下脂肪は中々減少しない、という。今、B型肝炎の再活性化が問題になっていますが、治療のためにステロイド剤を使うと重症化しやすくなり、90%以上で死亡に至ることが多い、と言うことと。一方、C型肝炎は、治療薬ができたので治る疾患になっている。しかし、治療によりウイルスは消失するが、肝硬変になることが多いという事でした。最近に肝炎の治療の進歩には5年前の学生時代に講義を受けただけの者には驚きの連続でした。

栃木県のはな会 総会のお知らせ

日時：令和6年(2024年)1月28日(日) 14時
特別講演：座長 北林 宏之 先生
とちぎメディカルセンターしもつが
外科医長
演者 松原 久裕 先生
千葉大学大学院医学研究院
先端応用外科 教授
会場：チサンホテル宇都宮 2F ふじ
宇都宮市駅前通り3-2-3
TEL：028-634-4311
駐車場有
参加費：無料

東京のはな会 新年会のご案内

日時：令和6年(2024年)1月20日(土)
16:40 特別講演：清水 逸平 先生(平14)
国立循環器病研究センター
心血管老化制御部 部長、
心不全・移植部門 特任部長
17:40 ショートスピーチ：
樋口 佳則 先生(平4)
千葉大学 脳神経外科 教授
片桐 諒子 先生(平20)
国立健康・栄養研究所
栄養疫学・食育研究部
栄養ガイドライン研究室 室長
18:20 懇親会
会場：銀座アスターお茶の水賓館
東京都千代田区神田駿河台4丁目3
新お茶の水ビル21階
TEL：03-3293-8011
https://www.ginza-aster.co.jp/shops/05ochanomizu/
懇親会費：1万円(平成26年以降卒業者は無料です)

タッチパネル

《みんな》という言葉

都川流花(ペンネーム・昭36)

「みんながそう言うっている」と言われれば、多くの人は「そうか」と納得する。しかし、時間が経つとその《みんな》が平気で反対のことを言うのに出合うことがしばしばだ。何十年も経って《みんな》の言うことが変わるなら納得するが、何かのきっかけで一夜にしてガラリと変わるからビックリだ。2023年のハロウィンを前にして渋谷区は「ハロウィーンには渋谷に來ないでください」とテレビで呼び掛けた。それを聞きながら私は2019年に渋谷の駅前で撮った一枚の写真を机の中から取り出して改めて眺めた。巨大な看板だ。「ハロウィーンを渋谷の誇りに」と書いてある。外国人にもわかるように、丁寧に「SHIBUYA PRIDE, SHIBUYA HALLOWEEN」と英文でも書かれている。その頃、このフレーズを書いたポスターは渋谷の街の広範囲の場所に何枚も貼られていた。人が集まれば街に活気が生まれて経済効果もある。ハロウィーンを渋谷の売りにしよう。そのときは《みんな》がそういう視点で考えたのだろう。この看板の前を通り過ぎる《みんな》はこれを見て何の違和感も持たなかったはずだ。2022年10月29日のハロウィーンで韓国ソウルの梨泰院(イテウォン)の狭い通りに押し寄せた群衆の中で159人が圧死した。《みんな》の意識は一度に変わった。そうやって冷静に考えてみれば、ハロウィーンで渋谷に押し寄せる群衆も路上に集まるだけ地域経済には殆ど寄与しないことに《みんな》が気付く。言葉は意外に脆いものだ。福沢諭吉は「ペンも剣よりも強し」と言ったけれど、浜辺の砂に書かれた文字は翌朝には消えている。この写真の文字も渋谷の浜の砂に書いた文字だったのだろうか。



を前にして渋谷区は「ハロウィーンには渋谷に來ないでください」とテレビで呼び掛けた。それを聞きながら私は2019年に渋谷の駅前で撮った一枚の写真を机の中から取り出して改めて眺めた。

ク ラ ス 会

38
会 (昭38)

今年の昭和38年卒業のクラス会が、晴天に恵まれた10月21日(2023)、昨年と同様、東京タワーを間近に見ながら、その直下の芝公園近くの「とうふ屋うかい」で開かれました。

今年卒業後60年という記念の会でしたが、3人の同級生が他界され、冒頭の黙祷では格別の思いを込めて、いつにも増して心こもったものとなりました。卒業後50年の時は、毎年の物故者に見舞われながらも、半数を超える同級生が出席され、伊藤晴夫会長(当時)から一人一人に記念品をいただきました。

今年60年になり、年齢で言う還暦を迎えたと云えるかも知れませんが、それはあたかも富士山の五合目と六合目では見える景色が異なるように、50年時に比べて環境も変わり、自分自身の思いも変わり、50年時より、意気込み、やる気とともに、心の安らぎをより一層強く求めてきたように思われます。多くの同級生が病気を克服し、或いは

病気と共存しながら、お互いの健康を気遣い、確かめ合い、励まし合い、そしてこれからの更なる安寧を希む気持ちにより強くなつたように思います。それが今年のクラス会の恵物だったと言えるでしょう。

大学時代の私達のクラスは、お互いの自主性を最大限尊重し、お互いを理解し、助け合うクラスでした。60年安保闘争の時は、多くの同級生が参加し、行動を共にしました。その結果、お互いの絆をより深めたように思います。

そのことが、後に良い結果をもたらしたように思われます。同級生からは大学の学長をはじめ、13人も大学教授を輩出し、また病院長やセンター長などを歴任された人や、各種の学会長や医会長、医師会長を務められた人も多く、またその一方では、長きに亘って第一線の臨床医として地域や社会に貢献されている人もあります。その中には補聴器を装着しながら、元気に卒寿や米寿を迎えられました。

本学は「第一高等中学校医学部、明治20年」から「第一高等学校医学部、明治27年」を経て、明治34年に「千葉医学専門学校」と改

称された頃から、優れた臨床医を育てることを最も大きな目的の一つとされてきたように思われます。私達は正にそれを実践してきたのだと思います。

今回のクラス会では、夫々功成り名遂げて名誉教授や名譽院長となられた人の光に満ちた経験談や苦勞話も淡々と語られ、また、現役の医院長の生き様や思い出なども話されるなど、各々の多様な生き方が披露され、特に意味深い会となりました。

本クラス会の特徴として、幹事の配慮により、亡くなられた同級生のご夫人が幹事のご夫人と一緒に出席されていることです。恐らく、亡き夫君と親しかった同級生の話を聞き、語り合うことにより、特別の思いで夫を偲んでおられることと思えます。

私達が、医学部学生として卒業で学び始めた頃は、現在の新病院の場所には、木立に囲まれた基礎医学の各教室の建物が、別荘のようにそれぞれ独立して点在し、そこでの授業の度に、その長閑な木立の中を巡りながら散策していました。特に正門の正面に建てられていた木造の講堂は、映画「日本残酷物語」にも使

われたように、趣溢れるものでした。

それらは既に影もなく、また私達が精神科の講義を受けた小講堂は、明治5年に文部省が鉄筋コンクリートで最初に作った建物でしたが、すでに取り壊されなくなり、旧本館を残すのみとなりました。

それだけに、この旧本館に寄せる感慨と畏敬は、そこでの臨床実習の思い出とともに日毎に強くなっていくのを抑えることが出来ません。日本の医学のシンボルとしての価値を改めて思わずにはいられません。

卒業後60年経ったからといって、母校に対する思いは決して薄れてはいません。旧本館を見るにつけ、これを作ってくれた先人たちの意思と思い入れを強く感じます。今後共、本学が日本の医学界のリーダーであり続けてほしいと心から思います。関係者各位のご尽力を何卒お願いいたします。

映画監督の新藤兼人は「その人が生きていることだ」と言っています。私達は、故人となられた同級生を想い出す幸せを噛みしめながら、故人が、別の世界から私達を見守っていてくれると信じます。

また来年の再開を約して、2時間に亘る会が閉じられました。

毎年大変な幹事役を引き受けて下さっている幹事の沖田正彦君、木下敏子君、香西襄君、三木亮君、加藤友衛君に心から感謝いたします。

余記..なお、序で乍ら、私は終戦の年、昭和20年に小学校(当時の国民学校)に入学しました。従って、

戦争体験を実際に記憶しているのは我々の年代が最後かもしれないと思う時、敗戦直後の悲惨で窮乏を強いられた世の中を必死に生きてきた者の体験を、少しでも後世に伝えておくことが、我々世代に課せられた責務であると痛感しています。

写真右から
前列..佐藤裕俊、木下昌、香西襄、木下(石田)敏子、



加藤友衛夫人、故原紀道夫人、玉置哲也夫人
後列..玉置哲也、畔田浩、楯二郎、長山忠雄、宮下久夫、三木亮、大津裕司、浅野尚、谷修一、加藤友衛

お知らせ

むのはな同窓会事務局では、卒業年次別クラス名簿リスト、地域別会員リストおよび郵送用住所ラベルをご希望により作成いたします。詳細は同窓会事務室にお問い合わせください。

昭和46年卒クラス会

昭和46年（1971）卒業です。令和3年（2021）に卒業50年でした。コロナ騒ぎなどのため遅くなりましたが、令和5年9月17日（日）銀座アスター御茶ノ水賓館にて、卒業50周年を兼ねたクラス会を開催しました。39名参加で10年ぶりの集まりです。

幹事の挨拶後、物故者（既に21名）に黙祷を捧げました。その後、なのはな同窓会長の吉原俊雄先生より、ご祝辞を賜り、卒業50周年感謝状と記念メダルが授与されました。乾杯に続き、懇親会となりました。全員、後期高齢者です。ペースメーカー入っているので余計元気がなくなったものもあります。顔と名前が一致しないといけません。白内障もいます。名札の字は大きく、はつきりつけました。若かりし頃の美女、美男？の姿を思い出すのは容易でした。何々さんのノートのおかげで卒業できました。今更ながらの大き恩を反芻する男子、そこかしこに多数。憧れの君も既にお孫さんに恵まれ幸せそうでした。病氣や薬、手術の傷跡の数は、自慢はしないように致しましょう。楽し

い時間は過ぎるのも早かったです。お料理を沢山余らせてしまったのが、気がかりです。次回も（必ず）元気で会う約束で、お開きとなりました。

おわりに、我々一人一人に感謝状と記念メダルを懇切丁寧にご準備頂きました。本部の佐藤様、高野様、お



心遣い有難うございました。（三科孝夫）

写真右から

- 前列：松清平夫人、杏掛伸二、大和玲子、川村ひろみ、石田久枝、千葉幸恵、浅野さとえ、吉原俊雄同窓会長、山室美砂子、与那嶺和子、島田陽子、柳橋京子
- 後列：唐沢英偉、内田朝彦、林謙治、松清平、結東温、上木隆人、鈴木直人、北野邦孝、小川正憲、久田俊和、杉本和夫、若林康之、文隆雄、浜野頼隆、山口康一郎、小林弘忠、吉田孝宣、田畑陽一郎、山本勇、中村欽哉、牛嶋細二郎、保阪善昭、三科孝夫、長谷川利弘、櫻井幸弘、大友一夫、竹森利忠、矢端幸夫

平成5年卒 同窓会

COVID-19感染第9波のベクトルも上昇傾向にある令和5年9月3日（土）、平成5年卒同窓会を開きました。卒業30年、前回開催から6年が経過し、増田理重子先生の呼び掛けで、井上眼科病院のお膝元銀座アスター御茶ノ水賓館に27名が集まりました。

卒業以来再会した同級生の懐かしい話や、仕事での紆余曲折と成功談、家族と

の付き合い方とこれから始まる第二の人生など、銘々が楽しそうに談笑する姿が見られました。50歳半ばを過ぎ、仕事では任せられる部下も育ち管理職として振る舞う、また開業も軌道に乗り医師会の中核として地域医療を盛り上げ、家庭では子育ても一段落し自分の趣味の時間をとれる余裕が出て来た、一方患者さんの他にも今度は自分の病気が心配になる。まったり過ごすか、まだまだガチで仕事に専念するか、これからの30年との分岐点に立っています。

この6年間に、菱木知郎先生（令2、千葉大学大学院医学研究科小児外科学教授）、藤本善英先生（令2、国際医療福祉大学医学部循環器内科学教授）、加藤一喜先生（令3、北里大学医学部産婦人科主任教授）、伊藤雅昭先生（令4、国立がんセンター東病院副院長、同先端医療開発センター手術機器開発分野分野長）、山口淳一先生（令4、東京女子医科大学循環器内科学教授・基幹分野長）、坂尾誠一郎先生（令5、国際医療福祉大学医学部呼吸器内科学主任教授）の6名が新たに重載に就任されました。日本の先端医療と研究・

教育を牽引して欲しい、と同級生二回の期待と共に、会計の尾崎由佳先生が猛暑のなか取り寄せた伊東屋オリジナル名入りボールペンと花束の贈呈が行われました。

わずか2時間の開催でしたが、閉会後も会場で30分以上立ち話が続いたことは、心からみな再会を懐かしんでいた証拠だと思います。次の同窓会でも会えることを希望し、これからも健康で、仕事

に趣味に邁進しましょう。直前で旦那のCOVID-19感染のため参加できなかった幹事の原佳奈子先生、次回を楽しみにしていただきます。（横須賀忠）

写真右から

- 前列：溝口研一、村手秀子、坂尾誠一郎、山口淳一、藤本善英、伊藤雅昭、小林紀子、尾崎由佳
- 2列目：花岡英紀、関谷武司、井上賢治、福田和司、角田寿之、増田真一、萩原



憲治、新行内雅斗、松本泰典
 3列目：横須賀忠、徳永進、柴田陽一、波多野治、村田泰章、土田智一、小林伸宏、山口伸幸、杉本克己、岩本容武

(写真提供：徳永進)

ゼロハチ会 (平8)

2023年9月30日(土)夜、如水会館にて「ゼロハチ会」(平成2年入学・平成8年卒業)を開催しました。1996年に医学部卒業以来初?!の同期会でした。

まず本年1月に甲賀かをり先生が千葉大学教授に就任という嬉しいニュースがあり慶祝の声が上がりました。また、今秋に米国留学予定の岡田尚子先生の壮行を。という話もきっかけとなり、有志で会を企画したところ37名の出席がありました。如水会館は他大学の同窓会で設立された場所ではありませんが、かの洪澤榮一先生が「君子交淡如水」(君子の交わりは淡きこと水の如し…才能のある者の交際は水のようにさっぱりしており、濃密ではないが長続きする)に由来し「流れる水のように、絆がいつまでも続きますように」と



の想いを込めて命名された会館(如水会館E1)より引用)で、27年ぶりに集うことになった我々には相応しい場所での再会となりました。

司会進行は川名有紀子先生が務め、乾杯の合図と共に、ブッフエスタイル・自由席の会場内では皆が気楽に行き来をして、長くご無沙汰をしていたにも関わらず

あつという間に、そしてそんなりと出席者全員で30年近くの時を超えるタイムスリップを共有しました。各テーブルでは尽きない会話に花が咲いていました。最後には、甲賀先生と岡田先生、そして甲賀先生よりも先んじて教授に就任されていた赤澤努先生(聖マリアンナ医科大学)と三階貴史先生(北里大学)へは遅

ればせながらのサプライズで、皆からお祝いの気持ちを送りました。4名の先生の祝賀や壮行がきっかけとなった開催でしたが、全員が50代以上という歳を重ねて、またコロナ禍を通じて、懐かしさや会えるときに会いたい人達に会っておこう。など色々な想いを抱えての参加だったと思います。以下は、終会後に届いた参加者の言葉の一部です。本当に嬉しすぎる時間だった。予想していた以上に懐かしかった。久しぶりに気が緩んで心から楽しい時間だった。一生の思い出に残る一日だった。生きていくうちにやっておきたいことの1つが叶った。もういい歳だけどみんな気持ちは若いままで嬉しかった。まだ余韻が残るフワフワしている。参加を迷ったが行って本当に良かった。しばらくは楽しかった時間を糧に頑張れる。帰り道に涙がでるほど嬉しい機会だった。等々、同期ならではの特別な絆を感じつつ、次の再会を期して、また各自の日常へ戻っていく帰路となりました。

今回、お知らせが行き届かなかった同輩の先生には申し訳ありません。この機会に同窓会事務局の方にゼロハチ会の繋がりを結ぶご

協力を受けることになりました。該当の先生はぜひご一報ください。

(関田恭子)

写真右から

前列：豊田玲子、鹿島京子、寺沢公仁子、三階貴史、岡田尚子、甲賀かをり、赤澤努、平野好絵、山地治子、有本友季子、佐藤由美
 2列目：関田恭子、川名有紀子、浅井利大、黒田泰久、押田恵子、今本敬、坂間淳孝、大平学、関根泰、小杉千弘、和田浩、土田大介
 3列目：熱田智範、松本圭介、松尾直樹、阿部敦、佐々木龍一、高見洋司、笠松淳也、山田博之、石原順就



ライトアップされた桜並木が、とても幻想的でステキでした!

日曜劇場「VIVANT」に撮影協力
 外来や医学部棟前の桜並木が登場
 7~9月に放送された堺雅人さんが主演のドラマ「VIVANT」(ヴィヴァン)のロケ地として撮影協力しました。外来診療棟1階のホスピタルストリートのほか、医学部前の桜並木も登場しています。

豊田智彦、平山信男、星野敏彦、今村隆明、清水公雄

第26回
日本医薬品情報学会
 総会・学術大会

The 26th Annual Meeting of
 the Japanese Society of Drug Informatics

DI 26

26th JASDI CHIBA

創・走・奏

2024 6/1 SAT 2 SUN

会場 千葉大学医学部、医学部附属病院
 大会長 石井伊都子
 (千葉大学医学部附属病院薬剤部 教授・部長)

千葉大学医学部ホームカミングデー

卒後50年（昭和48年）卒業生

卒後25年（平成10年）卒業生

卒後60年（昭和38年）卒業生

令和5年11月19日（日）於 医学系総合研究棟 第一講義室

令和5年（2023年）11月19日（日）医学系総合研究棟（治療学研究棟）に於いて、昭和38年卒業生、昭和48年卒業生、平成10年卒業生をご招待し、千葉大学医学部ホームカミングデーが開催されました。

白澤浩ゐのはな同窓会副会長の開会の辞の後、吉原俊雄ゐのはな同窓会長が挨拶され、千葉大学ゐのはな音楽部による弦楽四重奏の演奏の後、式典が行われました。吉原俊雄ゐのはな同窓会長より、卒後50年卒業生には感謝状と記念メダルが、卒後25年卒業生には激励状とロゴマークバッジが、卒後60年卒業生には記念メダルとクッキーが贈呈されました。医学系総合研究棟前で記念撮影を行い、閉会となりました。



写真左から 昭和48年卒業生

最後列：伊藤達雄参与、中村真人副会長、白澤浩副会長

三列目：諏訪園靖理事、栗原正利理事、高安賢一、高圓博文、梅田透、大久保秀樹、片桐博子、阪保亜莉沙、長谷部正晴、吉田明夫

二列目：横山淳一、田沢浩、竹中正治、安野憲一、岩本逸夫、野口哲夫、金塚東、白井厚治、小林道生、小川富雄、田邊政裕理事

前列：南昌平、金井英夫、吉田秀夫、伊藤よしみ、大内美南、吉原俊雄会長、徳久剛史、千葉次郎、広瀬彰、千見寺ひろみ、後藤澄雄（敬称略）



写真左から 平成10年卒業生

三列目：白澤浩副会長、大矢佳寛、藤井祐美、鈴木建則、田邊政裕理事、中村真人理事

二列目：栗原正利副会長、諏訪園靖理事、三浦陽子、上田亮、井上淳、愛波淳子、照井慶太、落合信靖、小松幹一郎、桜井学、鈴木崇根

前列：堀越桃子、守由美子、藤井朋子、小池香、窪田真理子、吉原俊雄会長、太和田暁之、山本夏代、大和田千桂子、粉川敦子、磯山恭子（敬称略）



写真左から

昭和38年卒業生

後列：中村真人副会長、諏訪園靖理事、栗原正利副会長、伊藤達雄参与、白澤浩副会長、田邊政裕理事

前列：浅野尚、谷修一、三木亮、香西襄、玉置哲也、吉原俊雄会長、宮下久夫、鳥羽剛、畔田浩、大津裕司、楯二郎 (敬称略)



参加者全員で

令和6年度のホームカミングデーは

昭和49年卒業生 (卒後50年)

平成11年卒業生 (卒後25年)

上記学年の先生方をご招待し、

令和6年11月中旬の開催を予定しております。

2023年ホームカミングデー会場の様子



白澤浩 副会長 開会の辞



ろのはな音楽部 弦楽四重奏演奏



吉原俊雄 会長 挨拶



卒後50年(昭48)卒業生
代表 徳久剛史氏



徳久剛史氏 挨拶



栗原正利 副会長 DVD解説



卒後25年(平10)卒業生
代表 太和田暁之氏



太和田暁之氏 挨拶



卒後60年(昭38)卒業生
代表 玉置哲也氏



玉置哲也氏 挨拶



研修プログラム

千葉大学医学部附属病院
総合診療科

— 外来診断学の確立に向けて —

千葉大学大学院医学研究院 診断推論学
教授 生坂政臣 (鳥取大・昭60)

教育のためのスペースや人的資源の問題などから、わが国の外来教育は病棟教育に比べて大きな遅れをいつている。外来診療と病棟診療の最大の違いは、前者における診療時間の制約である。網羅的情報収集後に「problem list」を作つて鑑別していく病棟での診療方略に対して、外来では限られた病歴情報からキーワードをすばやく絞り込み、漸次収集される情報をリアルタイムに処理しながら診断を進めていくプロセスが求められる。さらに同じ疾患でも軽症期の外来患者は入院患者とは全く異なる症候を呈するので、病棟で重症患者を多数経験しても、疾患初期の外来患者を診断できるようににはならない。例えば同じクモ膜下出血でもマインナーリクで外来受診した頭痛患者と、大出血で搬

入された意識障害の患者とでは、診断の難易度だけでなく、訴訟のリスクも前者の方が遙かに高い。

診断推論は疾患仮説を想起する前半と、想起された仮説の妥当性を検証する後半に分けられる。後半のプロセスは、得られた情報の尤度比から事後確率を割り出しながら疾患を絞り込む作業であり、追加すべき情報の選択とその尤度比について既存のデータベースを利用できるため、初学者や人工知能でも遂行可能である。但し前半の疾患仮説生成を前提としているため、臨床経験が乏しい初学者には Semantic Qualifier や VINDICATE+P などの方略を利用した、暗黙知に頼らない疾患想起の指導が必要となる。

当科の外来教育は、パソコンで診療と平

行して行うプリセプティン

グと、診察終了後に行う外

来カンファレンスに分けられ

る。プリセプティングでは診

断とその根拠を述べさせる5

マイクロスキルが頻用される

が、私たちはこれに非合致

点の言語化を加えた6マイ

クロスキルを開発し、ヒュー

リスティックバイアスを回避

させる教育に利用している。

また外来カンファレンスは診

療を再現する形式とし、主

訴、病歴、身体診察、一般

検査、特殊検査の順に情報

を小出しにして、それぞれの

ステージで推論する力を鍛

えている。この際、診断の一

致、不一致よりも、そこに至

る思考プロセスを重視しす

るとともに、学修者が自ら

答えを出して達成感と診断

学の醍醐味を味わえるよう

に工夫している。この教育形

式は、2010〜2017年

度にZEMで全国放映され

た「総合診療医ドクターG」

の雛形になっており、現在も

毎週木曜日15時開始の当科

外来カンファレンスには全国

から多くの医師が研修登録

医として参加している。

ヒトは体の異状を知らせ

る生体信号を症状として言

語化できる唯一の生き物で

あり、医学が進歩した現代

においても診断に最も寄与

するのは病歴である。我々

は外来診断学を、病歴を主

体とした熟練医の診断プロ

セスを言語化する学問と捉

え、より効果的な教育方略

創出を目指して日々研鑽を

重ねている。

千葉県こども病院は独立

型小児専門総合医療施設

であり、千葉県と周辺地

域の小児の高度医療の拠点と

なっています。小児内科グ

ループ10科および新生児科

集中治療科によって小児内

科の領域すべてに対応する

だけでなく、精神科や、小

児を扱う外科系の診療領域

についても外科系診療科10

科で幅広くカバーしており、

各専門分野における最先端

の治療を提供しております。

また、認定看護師やMSW

のほかに、小児病院ならで

はのOJS(チャイルドライ

フスペシャリスト)、認定遺

伝カウンセラー、クリニクラ

ウン、アニマルセラピー、ポ

ランティアなどを含めた多

職種連携によるチーム医療

を実践しており、複合的な

疾患を持つ病児に対しても

各診療科・部門の連携も

と、こどもの全人的医療を

おこなっています。

同時に専門医療のみなら

ず感染症や救急疾患などへ

の対応も行い、また小児の

虐待や貧困など社会的問題

への積極的取り組み、要医

療的ケア児の対応など幅広

く家族支援を行い、他機関・

施設との連携にも熱心です。

当院での小児科専攻医研

修ですが、小児科医には新

生児期から思春期まで幅広

い知識と、発達段階によつ

て疾患内容が異なるという

知識が必要となります。さ

らに general physician と

しての能力が求められ、そ

のため、小児科医として

必須の疾患をまれなく経験

し、疾患の知識とチーム医

療・問題対応能力・安全管

理能力を獲得し、家族への

説明と同意を得る技能を身

につける必要があります。

当院では「小児医療の水

準向上・進歩発展を図り、

小児の健康増進および福祉

の充実に寄与する優れた小

児科専門医を育成する」こ

とを目的としており、一定

の専門領域に偏ることな

い、幅広い研修を行います。

な強みであり、現在千葉大

学をはじめとした多くの研

修ローテーション(小児科、

整形外科、麻酔科)に加え

て、小児科専攻医5人、小

児専門分野のサブスペシャ

リティ研修医12人が学び、

日々研鑽し診療にも活躍し

ています。

詳しくは病院のホーム

ページ (<https://www.pnet.chiba.lg.jp/kodomo/>)を

ご覧ください。

当院在籍のるのほな同窓

会報



会員を紹介いたします。
病院長：中島弘道(昭58)、
副病院長：皆川真規(平元)、
医療局長：仲野敦子(平2)、
診療部長：角田治美(昭60)、
星野直(京都府立大・平8)、
数川逸郎(山形大・平8)、
アレルギー・膠原病科：富板美奈子(平元)、循環器科：東浩二(平9)、血液・腫瘍科：落合秀匡(平9)、新生児科：鶴岡智子(平14)、精神科：安藤咲穂(平元)、小児外科：斉藤武(平6)、中田光政(平12)、整形外科：柿崎潤(平13)、脳神経外科：沼田理(平9)、眼科：平野香織(平12)、耳鼻咽喉科：有本友季子(平8)、外科：池百合恵(平14)、形成外科：石垣達也(平18)、泌尿器科：本間澄恵(平6)、松野大輔(平13)、歯科：渡邊俊英(北大歯・平4)
※県職員のみ記載しております。

研修医だより

千葉大学附属病院循環器内科における後期研修に臨んで

千葉大学附属病院 循環器内科 渡邊 良 太(平31)



千葉大学医学部平成31年卒で医師5年目の渡邊良太と申します。私は千葉県内の市中病院で2年間の初期研修を行った後、千葉大学の循環器内科に入局し、同大学の後期研修プログラムを開始しました。この度私の千葉大学循環器内科での後期研修についてお伝えしたいと思います。
当科のプログラムは、医師3年目と4年目に千葉県内の市中病院での勤務を行い、5年目に大学病院での勤務と医学研究を行います。市中病院での勤務を通じて臨床医学と診療の基礎を築き上げます。主に循環器内科の診療に携わりますが、内科専門医としての資格取得のために他科のローテ...

よびペースメーカーの挿入手術などの手技は、十分といったほどの症例数を経験できました。市中病院勤務期間にも研究発表の機会があり、日常の診療から生まれた疑問に対する研究を行いました。3年目と4年目での勤務先も異なり、多彩な経験を積むことができました。
5年目は大学病院での病棟業務を通じて、各分野の専門医の指導のもとでより専門的な医療を学んでおります。市中病院で培った知識と技術がさらに深化し、新たな専門的な知見を獲得する機会となっております。同時に、教員の指導の下で学術研究と論文発表に取り組んでいるところでもあります。給与面においても、市中病院での勤務時代と比較して、大きな変化はありませんでした。
このように、千葉大学のプログラムに参加することで、さまざまな環境で経験豊富な指導医のもとで働くことができ、循環器内科医としてのスキルを磨く機会が得られ、学術研究者としても多くの知識と経験を積むことができている。千葉県内で医師としての経験を積みたい方には、千葉大学の後期研修プログラムは非常に有益であると考えます。

千葉大学 むのはな同窓会 会員の皆様へ

「会員総合補償制度」のご案内

保険期間：2023年3月1日午後4時～2024年3月1日午後4時(中途加入随時受付)



5つの安心で、先生方の日常をしっかりとサポート

Medical insurance benefits grid with 5 items: 1. High medical litigation compensation (3 billion/9 billion yen), 2. Income compensation during long-term absence (up to 7 years), 3. Advanced medical care compensation (hospitalization/surgery), 4. Care compensation in case of sudden need, 5. Daily life protection (infectious diseases/earthquake damage).

※パンフレット等資料のご請求やお申込みは、右記取扱代理店までお問い合わせください。中途加入の場合、毎月20日までに頂いたお申込みにつきまして、翌月1日が補償の開始日となります。

【お問合せ先・取扱代理店】

PIONEER 株式会社パイオニア

Tel: 0120-36-8442 (平日 8:45～18:00)

https://www.pioneerltd.com



【資料請求はこちらから】

この広告は医師賠償責任保険、産業界等活動保険、団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットでご確認ください。また、ご加入にあたっては、必ず重要事項説明をよくお読みください。詳細は団体代表者の方にお渡ししてあります。保険約款および特約によりますが、ご不明な点は取扱代理店または引受保険会社へお尋ねください。

【引受保険会社】東京海上日動火災保険株式会社 (担当部)医療・福祉法人部 Tel: 03-3515-4143 (平日9:00～17:00)

2023年11月 23TC-005442

追悼

鈴木一郎先生を偲んで

独立行政法人国立病院機構千葉医療センター院長

森嶋友一 (昭60)



鈴木一郎先生は、去る令和5年9月30日、享年83歳でお亡くなりになられました。ちょうど1年間の闘病の末のご逝去でした。

先生は千葉大学医学部を昭和42年に卒業され、国立東京第一病院にて1年間のインターンの後、千葉大学第一外科(現、臓器制御外科)教室に入局されました。同教室では心臓血管外科チームに属し、昭和50年に論文「開心術による心筋虚血の問題とその対策」にて学位を授与されました。昭和51年からはお父様の鈴木五郎先生(大11)が初代院長を務められた国立千葉病院に入職され、平成9年に副院長、同15年に院長へと昇任されました。平成16年に病院名称の変更があり、平成20年をもって国立病院機構千葉医療センターを退

官し、名誉院長となられました。この間、大型看護学校の新築整備計画、DRGからDPCへの移行、新臨床研修制度の導入、国立病院の独立行政法人への移行など、次々と大きな変化に対応されました。また多くの困難を乗り越えて、新病院建設の目的を達成しての退官でした。平成22年6月千葉医療センター新病院の開院式を名誉院長として迎えられました。院長としての実績が評価され、令和元年秋には、瑞宝中綬章を受章されています。

退官後、平成20年10月には船橋市健康福祉局参与、翌年には船橋市病院局病院事業管理者に就任され、船橋市立医療センターの経営改善、新病院建て替え準備に積極的に関わられたとお聞きしています。平成30年には同市病院局特別顧問に就任、現役のままのご逝去となられました。新病院の入札が令和6年2月に控えており、それまでは頑張りたいという思いを病床でおつ

しやられていましたので、さぞ無念であったろうと推察いたします。

また先生は平成29年から千葉大学臓器制御外科同門会の会長に就任され、大塚将之教授のもと同門をまとめられました。千葉医療センターだけでなく、臓器制御外科教室の多くの同門から慕われる存在でした。県立千葉高出身の先生方には、同校同窓会長としても有名であつたろうと思います。ゴルフとお酒が好きで、交際範囲が広く、とにかく面倒見のよい先生でした。ある集団の中で自然とそのリーダーに祭り上げられる、そんな大きな存在でした。

外科医としての先生は、消化器外科が専門で、肝胆脾外科の高難度手術をいち早く始められた他、心臓血管外科領域の手術もされるオールマイティの外科医でした。平成9年から退官までは、私の食道がん手術のほとんどの第一助手を務めていただきました。何度も苦しい場面で、リカバリーショットを打っていただきました。病院経営者だけでなく、外科医としてのスキルも一流であつたと思います。恩師鈴木一郎先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

中山俊憲先生を偲んで

千葉大学大学院医学研究院院長

三木隆司 (昭63)



本学学長の中山俊憲先生が令和5年11月2日にお亡くなりになりました(享年64歳)。学長に就任されて3年を迎える前の早過ぎるご逝去でした。

中山先生は岡山県総社市のご出身で、山口大学医学部を1984年に卒業後、東京大学医学系研究科博士課程に進学され1988年に博士号を取得。その後、米国の国立癌研究所に留学されました。帰国後、東京大学医学部の免疫学教室の助手、東京理科大学生命科学研究所助教授を経て、1998年千葉大学大学院医学研究院助教授となり、2001年より同教授。2015年から6年間千葉大学大学院医学研究院院長を務められ、2021年から千葉大学の学長に就任されました。

中山先生は研究者になる夢を抱いて医学部へ入学し、医学部生時代に聴講した世界的免疫学者の多田富雄先生のご講演に感銘を受け、卒業、医師として働くことなく東京大学の大学院に進学され、多田先生の元で免疫の研究を開始されました。そして1998年に多田先生が初代教授を務められた千葉大学大学院医学研究院免疫発生学に異動され、准教授となられました。当時講座を主宰されていたのが谷口克教授(後に医学研究院長、理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター長を歴任)であり、こうして「多田・谷口・中山」と引き継がれる千葉大学の免疫学研究の大きな潮流が作り上げられました。そして、先端的免疫学研究を先導していく遺伝子は、中山先生が指導された優秀な次世代研究者に継承されています。

を我が国はもとより世界に向けて発信し続けました。また、多くの優れた研究者を育て上げた点も中山先生の特筆すべき業績と言えるでしょう。私は主に中山先生が医学研究院院長を務めていらつしやる時期に、大学運営にかかわる業務で、指導を賜り、大変多くのことを学ばせていただきました。中山先生は優れた医学研究者であるだけでなく、世の先を見据える眼力と創造性に溢れたリーダーであり、同時に大変細やかな心遣いを忘れない情に厚い先生でした。これら全てが「世

界に冠たる千葉大学へ」という中山学長の標語にも表れていました。中山先生が突然天に召されてしまわれたことは、中山先生をお慕いしていた多くの人々にとって耐え難い苦しみです。しかし、中山先生が遺された理念、信条、愛情は多くの人に根付いており、今後色々とところで大きな花を咲かせてくれることでしょう。どうかこれからも雲の上から私達のことを優しくお見守り頂くことをお願いし、ご冥福をお祈り申し上げます。

同窓会員のご逝去に際し、
弔文の掲載をご希望される
方は、同窓会本部へ原稿を
お送り下さい。

第17回 ちば Basic & Clinical Research Conference

日時：令和6年2月1日（木）13:00～17:00

会場：千葉大学医学部ろのはな記念講堂

※本研究会はスカラシッププログラムの講義としても位置づけております。

総合司会

千葉大学医学部 3年 神前 政智
2年 林 正之

13:00～【開会の辞】

千葉大学大学院医学研究院 機能形態学 教授 山口 淳 先生
ちばBCRC学生事務局 代表 1年 竹下 光英

13:10～【学生発表】

座長 千葉大学医学部 5年 岡本 昌大
千葉大学医学部 1年 大内 亮大

『網羅的時系列特徴量抽出を用いた凝固検査の解析』

演者 医学部 2年 嶋崎 悠斗

『p53野生型がん細胞に高い細胞死誘導効果を有する新規化合物の作用機序の解明』

演者 医学部 3年 北島 真綾

『Cytotoxic CD4⁺ T cellの分化制御機構について』

演者 医学部 4年 神津 隆之介

14:10～【講座紹介】

座長 千葉大学大学院医学研究院 薬理学 教授 安西 尚彦 先生

『救急集中治療医学教室 研究紹介 ―未来を切り拓けー』

演者 千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学 教授 中田 孝明 先生

『iPS血小板製剤開発のブレークスルー：生体メカニズムに基づくバイオリクター』

演者 千葉大学大学院医学研究院 イノベーション再生医学 教授 江藤 浩之 先生

15:10～【講評】

千葉大学大学院医学研究院長 三木 隆司 先生

15:20～【表彰】

千葉大学大学院医学研究院 機能形態学 教授 山口 淳 先生
ろのはな同窓会長 吉原 俊雄 先生
千葉大学大学院医学研究院長 三木 隆司 先生

15:45～【特別講演】

座長 千葉大学大学院医学研究院 整形外科学 教授 大鳥 精司 先生

『難治性食道癌への挑戦』

演者 千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学 教授 松原 久裕 先生

16:45～【閉会の辞】

千葉大学災害治療学研究所 災害情報解析研究部門 教授 小野寺 淳 先生

世話人（敬称略）

徳久剛史、中谷晴昭、高橋和久、白澤浩、安西尚彦、中島裕史、大鳥精司、山口淳、小野寺淳、坂本明美

事務局

千葉大学バイオメディカル研究センター内 担当：坂本明美

電話：内線7901 E-mail：sakamoto@faculty.chiba-u.jp

学生代表：竹下光英、副代表：大内亮大、岡本昌大、神前政智、林正之、神津隆之介、嶋崎悠斗、北島真綾、寺井七海、吉本理紗

主催

千葉大学大学院医学研究院・医学部

共催

ちばBasic & Clinical Research Conference事務局、千葉医学会、ろのはな同窓会

埼玉みのはな会

獨協医科大学埼玉医療センターの近況
外科医不足に思うこと

獨協医科大学埼玉医療センター外科 教授
吉 富 秀 幸 (平2)

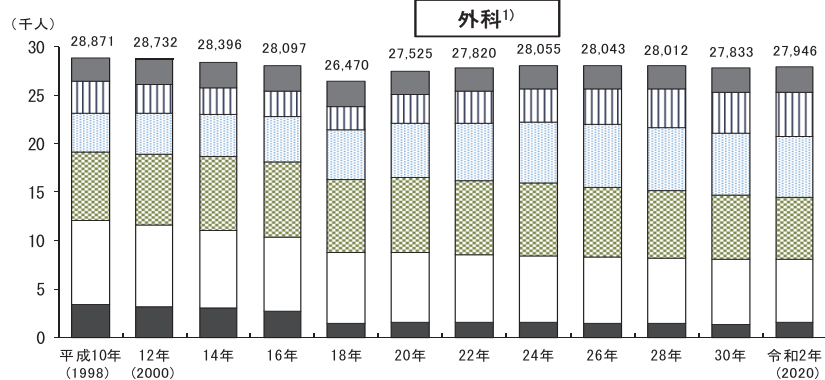


早いもので、2020年4月に私が当院に着任してからすでに3年が経過しました。この間、埼玉みのはな会のみなさまにはいろいろのご支援を賜り、大変感謝しております。

当院は埼玉県東部医療圏の中核病院として、多くの患者さまの診療に当たらせて頂いております。おかげさまで年間手術数も増加し、消化器外科として2022年は1034件をかぞえるまでになりました。私が主に担当している肝胆膵外科領域においても、2022年の肝胆膵高難度外科手術数も90件と県下有数の手術数を誇るまでに成長して参りました。これもひとえに、みのはな会のみなさまからのご支援、ご指導の賜物と

感謝しております。さて、このように手術数の増加を見ておりますが、現在、やはり一番、頭を悩ませているのが若手医師の育成であります。厚生労働省の令和2年度 医師・歯科医師・薬剤師統計を見ますと、医師数は340千人です。これは、医学部定員増もあり20年前の平成12年と比較すると255千人から大きく増加、人口10万人比でも202人から269人へと増加しています。しかし、外科医師数を

見ると、平成12年/令和2年では2・9/2・8万人と若干、減っている状況です。もともと衝撃的なはその年齢構成です。平成12年は外科医の約2/3が40歳以下の一歩、働き盛りでしたが、令和2年ではほぼ、1/2とその割合が激減しています(グラフ参照)。これらのデータから、いかに若い医師が外科に進まなくなっているかが



厚生労働省 令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況より

明らかであります。今後の外科医療を考えると、本当にゆゆしき事態になっていると考へざるを得ません。私が入局した時期(平成2年)では千葉大学第1外科の同期は18名おりましたが、現在、外科の入局はせいぜい年に数名というのが現状であります。加えて、埼玉県の人口10万対外科医師数は14・9人と47都道府県最低であり、全国平均の22・2人には遠く及ばず、第一位の岡山県32・1人の半分にも満たないという危機的な状況です。このような現状では到底、地域医療の充実にはほど遠く、外科医師の育成は特に埼玉県では喫緊の課題です。

なぜ、医師数が増えているにもかかわらず、このように外科の人数が無いのでしょうか?単に、時代の流れだからといって流しているは問題解決にはほど遠いと思えますし、また、負のスパイラルで外科医不足により拍車がかかるのではないかと思います。そこで、この状況でどのようなことができるのか、考へてみました(月並みな意見ですが)。まずは、長時間労働です。当科ではチーム制という考え方を可能な限り徹底し、休日には出番に任せるように

しております。ただ、これを実現するためには毎日密なチーム内のコミュニケーションが大事ですので、朝夕のチーム内カンファレンスでメンバー全員が各患者の課題をしっかりと把握するようにしています。加えて、タスクシフトも見据えて、看護師、リハビリ技師、薬剤師、ソーシヤルワーカーと週1回、全患者のカンファレンスを行い、各患者の治療方針を全職種で共有することで、何らかの異常事態も医師ではない方から知らせてもらえることも多くなりました。このような事を通して、看護師のレベルアップも図っていくと考へています。外科の特定行為については、まだ、なかなか希望者も少なく、医師の負担軽減まで結びついていない(というより、指導などにより時間をとられてしまっている)というのが現状ではありますが、将来を見据え、取り組んでいく課題と思えます。

一方で、教育という面では古い考え方ですが、やはり、外科医はより経験を積むことが大事であり、そのためには先輩方の手術、技術をできるだけ多く見ることも肝要なのは、今でも変わらないと思います。そのためには、どうしても定時の仕事のみでは対応はできません。単に叱り飛ばすといった方法をとらず、何が問題点を気づかせるように心がけているつもりです(実行出来ているかどうか、自信はありませんが、)。このようにいろいろな努力を通して、少しでも若い外科医を育成したいと思えます。外科は人気が無いと言われますが、入局をしていく若者を見ると、ちょっとやそつとでは、こたれない連中も多く、単に世代で気質を決め込むのではなく、個々の性格に合わせた育成を心がけていきたいと考へています。これまで、私が異動してから、2021年、22年、23年と4名、5名、3名の新しい入局者を外科に迎えることができました。今後、埼玉みのはな会の先生がいらつしやる施設との綿密な関係を抜け(すでに幾つかの千葉大学関連施設との協力が実現しております)、彼ら若い医師の教育にご協力頂ければ幸いです。(埼玉みのはな 第24号 2023年8月より転載)

会員から

るのほな同窓会支援

第48回るのほな美術展

(令和5年9月11日～17日)

橋本英明(昭45)

例年同様、銀座シックスビル前(みゆき通り)「銀座ギャラリー向日葵」で開催されました。コロナ感染の流行も下火となりましたが、残念ながら来館者数が増える様子は見られませんでした。

本美術展は、48年間も続く伝統あるクラブです。低空飛行でも何とか維持していきたくと考えております。特に「銀座」という地名はインパクトがあります。我が校のロビー活動の一つとしても存在意義があると思えますので、次回の会期中には是非多数のご来館を期待しております。

※次回からは絵画に限定させていただきます。



写真左から：橋本英明(昭45)、島田哲男(昭41)、野口眞利(昭40)、宮下久夫(昭38)

ず、写真も展覧させていただく事になりました。ご協力いただける方は、るのほな同窓会事務局までご連絡ください。

第48回るのほな美術展 会計報告

入金	
出品料等	210,000円
るのほな同窓会より助成	200,000円
入金合計	410,000円
出金	
会場費	420,000円
受付、搬入出等 人件費	54,000円
案内状	20,000円
郵便・通信費等	13,000円
出金合計	507,000円

第48回るのほな美術展 出品作品

氏名	卒年	作品
宮下 久夫	昭38	ラッフル カンパニユラ リップギャル 菊葉
吉川 廣和	昭40	静物A 静物B
野口 眞利	昭40	アルルの教会 夜の街 ランプ ニースの風景 ラメール ラパンアジル マルセーユ港 無題
島田 哲男	昭41	人物習作 裸婦 裸婦 グラム島寄港
橋本 英明	昭45	エンパペの同点シュート 砂漠の集会
榎本 貴夫	昭47	ナッチー 北端-宗谷-

治療参加のお願い

不眠症を対象とした認知行動療法を用いた医療機器プログラム(アプリ)の医師主導治療の参加者募集のお願い

認知行動療法センター、認知行動生理学

清水 栄 司(平2)



るのほな同窓会の先生方

におかれましては、日常臨床の中で、不眠を訴える患者さんを診察される機会をお持ちのことと存じます。

不眠症は、人口の6%から10%の方がなるとされており、うつ病などの精神疾患につながる病態で、自殺対策としても、不眠症への介入の重要性が指摘されています。

一方で、日本のベンゾジアゼピン系睡眠薬の処方量は、欧米に比して多剤併用、高用量であり、超高齢社会において、転倒リスクの増大、認知機能の低下、交通事故リスクの増大、薬物依存などが社会問題となっており、従来の睡眠薬に依存した治療からの脱却が必要とされています。

そこで、私たちは、日本医療研究開発機構(AMED)の医療機器開発推進研究事業の採択課題「不眠症患者に対する治療(認知行動療法)アプリに関する研究開発」において、治療審査委員会で承認を得て、2023年7月から2024年8月まで、「不眠症患者に対する

2024年7月26日(金)～27日(土)
JPタワーホール&カンファレンス
東京都千代田区丸の内二丁目7番2号 KITTE 4階
加藤 直也
千葉大学大学院医学研究科 消化器内科学

第30回日本肝がん分子標的治療研究会
The 30th Meeting of Japan Association of Molecular Targeted Therapy for HCC

新時代
を迎えた肝がん治療の行く先

開催期間 2024年1月30日(金)～3月5日(土)

認知行動療法アプリ(MED・スリープモード)の有効性および安全性を評価するためのゾルピデム酒石酸塩を対照とした2群のランダム化非盲検多施設共同探索試験」を千葉大学病院、秋田大学病院、睡眠総合ケアクリニック代々木の3か所で行います。この医師主導治療で、本アプリの有効性を示すことができれば、将来的に、医師が、睡眠薬の代わりにアプリを処方できるという画期的な成果につながると考えています。

よろしければ、同封した研究参加募集チラシを院内掲示板等にご提示いただき、不

眠で悩む患者さんや知人がおられた場合、チラシのWEBサイトにアクセスして、そこから参加申し込みをお勧めいただく形で、私どもの研究をご支援いただけます。ただし、重大疾患の合併等、適格基準に合わず、ご参加いただけない場合もあります。



埼玉るのほな会 第24号 2023年8月

埼玉るのほな

千葉大学医学部るのほな同窓会埼玉県支部

第24号 2023年8月



埼玉るのほな 第24号 2023年(令和5年) 目次

ご挨拶	巻頭言.....吉川 廣和 1
お知らせ	埼玉県支部総会のご案内..... 2
お祝	
米寿	米寿に思うこと永田 一郎 3 米寿を迎えて松本 生 4
喜寿	喜寿を迎えて大友 一夫 8 医師生活50年野口 哲夫 11
話の広場	
短歌	日常風呂目録(其の二)根岸 敬矩 15
随想	映画と字幕松本 生 25 80歳つれづれの記諏訪 敬一 30 埼玉るのほな会にお世話になって済陽 高穂 31 小笠原へコロナ後の船旅小川 富雄 32 医療DXと近未来伊藤 博 37 わたしとマラソン平山 信男 39 妻との水族館巡り常岡 秀和 42
趣味	ウィーン世紀末芸術、クリムト、マラー、R・シュトラウス上野 泉 47 天体写真録(12)杉浦 敏之 55
病院近況	
	さいたま赤十字病院大島 忠 64 埼玉医科大学病院松尾 幸治 66 獨協医科大学埼玉医療センター吉富 秀幸 68
埼玉県支部から	
	ご挨拶とお願い・令和4年度埼玉県支部決算報告中村 勉 71 年会費納入者名 お祝いとお悔やみ 72 埼玉県支部規約 73 お願い・原稿募集 74 表紙写真のご案内今野 慎 75 編集後記今野 慎 76

栃木県るのほな会 令和5年 第20号

とちぎるのほな

令和5年 第20号



栃木県るのほな会

千葉大学医学部るのほな同窓会栃木県支部

とちぎるのほな 第20号

目次

巻頭言	巻頭言.....森本 直樹(平3卒)..... 1
総会	令和5年度 栃木県るのほな会 総会プログラム 2 令和4年 会計報告 森本 直樹(平3卒) 3 監査報告 戸邊 豊総(平1卒)、矢野 忠幸(平8卒) 3 総会写真 4
特別講演	栃木県るのほな会で講演する機会をいただき加藤 直也(昭61卒) 7
関連病院だより	今年の済生会病院 戸邊 豊総(平1卒) 11 自治医科大学便り 川平 洋(平4卒) 14 近況のご報告 神作 憲司(平7卒) 16 上都賀総合病院 吉住 博明(平11卒) 17 とちぎメディカルセンターしもつがの近況 北林 宏之(平12卒) 19
追悼記	大宮安紀彦君を偲ぶ 小池 正造(昭53卒) 21
エッセイ	設立から20年以上が経過し、栃木県るのほな会の歴史を改めて振り返る 安藤 克彦(昭60卒) 22 何事もスローな近況 本多 陸人(昭42卒) 23 獨協医科大学下部消化管治療センター 石塚 謙(平3卒) 26 一勤務医の回想 須田 啓一(昭50卒) 27 車のガラスコーティング 矢野 忠幸(平8卒) 29 少年サッカーへの貢献 行澤 齊吾(平9卒) 31
プロフィール	自己紹介と佐野市民病院での4年を振り返って 砂澤 徹(平3卒) 32 有馬 雅史(昭61卒) 34 中島 崇裕(平13卒) 36 池田 啓(平9卒) 37 松井謙一郎(平28卒) 38 中村 元洋(平25卒) 39
表紙写真・編集後記 40
会員名簿 41
栃木県るのほな会刊 44

学 生 教 育

第13回東日本研究医養成コンソーシアム 「夏のリトリート」参加報告

学生代表 神前政智(医3)

令和5年8月19、20日の二日間にわたり、宮城県仙台市の東北大学星陵キャンパス星陵会館にて東日本研究医養成コンソーシアム「夏のリトリート」が開催されました。本会は医学生の研究マインドの涵養と大学間での交流を主な目的として千葉大学を含む4大学で立ち上げられ、13回目となる今年には東北大学を主管校として11大学から計118名が、本学からは学生12名、教員4名が現地とオンラインのハイブリッド形式で参加いたしました。

学生発表(口頭発表9題、ポスター発表27題)はどれも深い研究内容であるとともに、多様な発表がなされ、学生同士の活発なディスカッションを通じてそれぞれ研究に対する意欲を高めました。



先生(東北大学糖尿病代謝内科学分野教授)から、それぞれの研究体験や最先端の研究事例についてご講演いただき、研究医としてのキャリアや研究活動の意義について大変刺激を受けました。

来年のリトリートは群馬大学を主管校として伊香保温泉にて開催される予定です。また活発な交流を通じて学生による医学研究の機運が更に高まることを願います。最後にはなりますが、仙台現地での夏のリトリート参加につきまして、費用をご支援くださった方々、そしてご指導くださった田中知明先生、坂本明美先生、小野寺淳先生、瀧由樹先生にはこの場を借りて心より感謝申し上げます。

写真右から
前列・安田圭一朗(医3)、
神津隆之介(医4)、田中知明(分子病態解析学教授・平4)、岩本賢武(医1)、
大内奈緒(医1)、坂本明美(バイオメディカル研究センター准教授・昭62)、宮川宏佳(医6)
後列・竹下光英(医1)、岡本昌大(医5)、神前政智(医3)、林正之(医2)、北島真綾(医3)、小野寺淳(災害治療学研究所災害情報解析研究部門教授・平18)、瀧由樹(分子病態解析学博士課程・平29)

学 内 情 報

亥鼻祭2023開催のご報告

亥鼻祭実行委員会サークル

委員長 薬学部3年 山崎拓海
薬学部3年 鳴坂花菜

令和5年度11月5日、亥鼻祭2023が亥鼻キャンパスにて開催されました。新型コロナウイルスの影響により開催制限を余儀なくされたここ数年でしたが、今年度は4年振りの食品販売など更に活動を拡大して開催することができました。当日は天候にも恵まれ、2300名以上のご来場者様をお迎えしました。

方まで幅広い方々にお楽しみ頂きました。講演会以外にもびあの倶楽部による公演やクイズ大会などの企画

のほなな記念講堂では医薬看三学部より先生方をお招きし、講演会を行いました。薬学部の森部久仁一先生より「薬学における製剤の教育と研究…これまで歩んできた道のり」について、看護学部の宮崎美砂子先生より「災害時に求められる看護」について、医学部の伊藤彰一先生より「千葉大学医学部での学修」についてお話し頂きました。ご講演はどれも興味深い内容でありながらも非常に分かりやすく、学生から大人



を行いました。野外ステージでは亥鼻バンドサークル、EDC、舞部による公演が行われました。出演する学生たちは亥鼻祭の晴れ舞台に向けて積み重ねてきた練習の成果を存分に発揮し、観客の皆様最高のパフォーマンスをお届けすることができました。

看護学部棟では医療体験企画、受験相談会、キャンパスツアー、薬学部研究室紹介企画など、沢山の企画を



行いました。特にコロナ禍を機に力を入れている、VRやARなどの技術を利用した謎解き企画・ゲーム企画は、お子様から大人の方までお楽しみ頂きました。

そして、4年ぶりの復活となった食品販売では、学生団体、外部キッチンカーによる出店を行いました。学祭の目玉とも言える念願の食品販売の復活に、コロナ前までの活気が戻ってくるのを感じました。ご飯もからデザートまで幅広い

メニューは、多くのご来場者様にご満足頂きました。今年度も多くの先生方、企業・団体様のご支援・協力に支えられ、無事に亥鼻祭を開催することができました。改めて厚く御礼申し上げます。来年度以降も学内外の多くの方々にお楽しみ頂けるパワーアップした亥鼻祭を創るべく、委員一同尽力して参ります。今後ともご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

るのほな同窓会支援 第14回 白衣式 会長祝辞

2023年12月1日(火)

るのほな同窓会長

吉原 俊雄 (昭53)

るのほな同窓会を代表して、白衣式に臨まれる学生の皆さんにお祝いを述べさせていただきます。

今日の白衣式は、これまで先生方から基礎医学・臨床医学を学び、そして身に着けた知識を活かして、student doctorとして病院の臨床実習をスタートする大きな節目となります。病院で実際に患者さんと向かい合う診療活動を経験しますが、将来の優れた医師、研究者になるための基礎と

なります。

本日は皆さん、そしてご臨席いただいたご家族の皆様にお祝いの言葉を述べると共に、同窓会の事業の一端もご紹介したいと思います。るのほな同窓会は、「白衣式」をはじめ、研究発表の場である「ちばBCRC」、「解剖実習における白菊会様」、「亥鼻祭」など多方面にわたり学生さんへの支援を続けています。昨年は閉館した旧医学部本館の歴史を振り返り、将来の発

展の礎とするため、ZEHNDキュメンタリー制作スタッフと共に、資料収集を行い、50分の記録DVDを作製しました。今日まで1700枚以上DVDを送付しております。多くの反響を頂きまして、ご覧になった千葉市立郷土博物館館長からも寄稿文を頂き、9月には千葉日報1面にも大きく取り上げられました。すでに朝日新聞の取材も受け、来週には東京新聞社との取材も受けることになっていきます。

昭和11年竣工の旧本館は当時東洋一の設備を誇る病院でした。閉館後、学生のみなさんは新しく建設された医学系総合研究棟、中央診療棟、放射線治療棟での学び、実習を体験することになります。同窓会は学生の皆さん、そして各都道府



【写真提供：フォトチョイス】

県の支部、日本中で活躍する同窓への支援と情報共有のネットワークを構成しています。

2024年に千葉大学医学部は創立150周年を迎えます。千葉医学 Chiba Medicineの伝統は「すぐれた臨床医の輩出」であり、そして優れた基礎医学系教室と臨床医学系教室の垣根を超えた協力により、臨床のレベルアップをしていくのが本学の特徴です。旧病院時代には戦後米軍の医師、世界各国の医師、日本中から多くの外科医が手術見学に訪れた記録も多数残っています。千葉医学は明治7年開設の公立病院に始まり、公立千葉病院、千葉医科大学病院(旧病院・旧本館)を経て、現在の施設に関わる皆さんに、その

誓いの言葉

伝統は脈々と引き継がれています。皆さんが将来の臨床医、研究者、教育職あるいは医療行政と多方面において、すばらしい同窓になることを願って、私のお祝いの言葉とさせていただきます。今後の活躍を期待しております。

私達は、医師としての高い専門性を自覚した上で、医学に対する飽くなき探求心を持ち、最先端の医療と社会の発展に資する医療人を目指します。

全人的な医療に求められる豊かな人間性と倫理観を涵養するとともに、患者や家族に対する敬意や共感、思いやりを忘れず理解し寄り添う努力を惜しみません。

他者の意見を傾聴する姿勢とリーダーシップを持って綿密な専門職間連携を実践し、患者中心の医療を心がけます。

時勢の中で医師に求められる役割に気を配り、柔軟な対応ができる医師を目指します。



【写真提供：フォトチョイス】

課外活動団体だより

亥鼻水泳部

医学部2年 野間 荘志

亥鼻水泳部(以下いすい)は医学部、薬学部そして看護学部の学生が所属しています。私たちの部活は、火曜日、木曜日、土曜日の週3日にわたって、水泳の練習を行っています。

夏季には西千葉キャンパスの屋外プールで、冬季には習志野にある国際水泳場で練習を行います。いすいの活動内容は、水泳技術の向上、体力の強化、そして仲間との楽しい時間を含みます。以下は私たちの活動の一部です。

まず水泳練習についてです。泳法のトレーニング、スタミナ向上、タイムの向上を目指します。練習は自由参加なので、各メンバーの目標に合わせて調整できます。次に仲間との結束です。いすいは部員数が非常に多く、横の関係だけでなく、縦の関係、つまり先輩後輩との交流が盛んです。新入部員はすぐに温かく迎えられ、絆を築く機会が豊富です。最後にイベントへ

の参加です。練習以外にも、夏旅行、クリスマス企画、年末旅行など、多くのイベントが開催されます。これ



らのイベントを通じて、部員同士が仲良くなり、素晴らしい思い出を共有します。泳ぎたくない人もこのイベントは誰でも参加可能なのでぜひ入部して私たちと楽しい時間を共有しましょう。いすいの魅力は多岐にわたります。まず、水泳は全身の筋力を鍛え、健康的な生活習慣を促進します。自己の限界を超え、成長する

喜びを味わえます。さらに、自由参加の練習と多彩なイベントは、部員同士の結束を強化し、友情を育む場として活用できます。いすいは、水泳技術の向上を目指すだけでなく、楽しみながらチームの一員として成長する機会を提供します。水泳のスキルがすでに高い場合でも、初心者でも、どんな生徒でも歓迎します。私たちと一緒に泳ぎながら、新しい友達と素晴らしい思い出を作りましょう。

いすいは、水泳愛好者にとって理想的な場所です。泳ぎながら仲間と結束し、健康的な生活習慣を築き、素晴らしい思い出を共有しましょう。水泳の魅力を見出し、いすいの一員として一緒に成長しましょう。私たちはあなたを歓迎しています！

- 役員名**
- 主将..浅見 純聖(医2)
 - 副将..野間 荘志(医2)
 - 会計..岡本 一希(医2)
 - 主務..遠藤 航希(医1)
 - 看護代表.. 葛西 律生(看2)
 - 看護副代表.. 澤田 彩葉(看2)
 - 薬学代表.. 仲宗根慶人(薬2)
 - 薬学副代表.. 増田 祐一(薬2)

亥鼻地区公認課外活動団体一覧

体育系	千葉大学医学部看護学部薬学部硬式野球部	文化系	千葉大学東洋医学研究会	
	千葉大学医学部看護学部薬学部硬式庭球部		世界の医療を考える会	
	医学部サッカー部		亥鼻手話の会	
	亥鼻男子バスケットボール部		千葉ぬいぐるみ病院	
	亥鼻卓球部		C-TAT	
	千葉大学医薬看護学部剣道部		亥鼻祭実行委員サークル	
	千葉大学医看軟式庭球部		Public Health 実践講座	
	千葉大学医学部スキー部		音楽系	千葉大学るのほな音楽部
	医学部水泳部		亥鼻バンドサークル	亥鼻びあの倶楽部
	亥鼻陸上競技部		亥鼻ジャズ研究会	医学部
千葉大学医学部弓道部	体育系	千葉大学医学部山岳部	柔道部	
千葉大学医薬看男子バレーボール部		自動車部	千葉大学医学部ヨット部	
医薬看女子バレーボール部		千葉大学医学部ゴルフ部		
千葉大学医学部ラグビー部	文化系	ACLS 勉強会	General Medicine Interest Group	
千葉大学亥鼻バドミントン部		山中寮(診療補助グループ)		
千葉大学亥鼻空手道部	音楽系	亥鼻軽音楽部		
千葉大学医薬看女子バスケットボール部				
亥鼻ダンスサークル (IDC)				
亥鼻フットサル部				
亥鼻マッスルサークル				

同窓会員著書の紹介

監修：千葉大学大学院医学研究院教授・

千葉大学医学部附属病院長 横手幸太郎 (昭63)

千葉大学医学部附属病院臨床栄養部副部長兼

栄養管理室長 野本尚子

料理：管理栄養士・料理研究家 岩崎啓子

最新改訂版

千葉大学医学部附属病院が教える コレステロール・ 中性脂肪対策レシピ

Gakken 定価 1790円 (税込)



今こそ食事療法を始め、コレステロール値や中性脂肪値の改善に取り組みましょう

健康診断や人間ドックなどでコレステロール値や中性脂肪値が高いと診断されても、自覚症状がないために、そのままにしてしまう人が多いようです。

コレステロールも中性脂肪も血液に含まれる脂質の一種で、本来悪者ではありません。ところが食生活や生活習慣の乱れなどから血中脂質のバランスがくずれると、このふたつの値が

紹介しています。

コレステロール値や中性脂肪値を改善していくにあたり、適正な摂取エネルギー量と、脂質や糖質のバランスを守れば、食べてはいけないものはないのです。血管を守り、健康で長生きするためにも、本書のレ

松永正訓 (昭62) 著

発達障害に生まれて 自閉症児と母の17年 (中公文庫)

中央公論新社 定価 986円 (税込)



2018年に『発達障害に生まれて 自閉症児と母の17年』を中央公論新社から単行本として上梓しました。今回その本が文庫化されましたので、その間の経緯を書かせていただきます。

この単行本は、発売直後から多くの人に手に取ってもらえました。そしてたくさんの方の書評が付き、取材も受けました。また寄稿もしました。主なものを以下に挙げてみます。

- ・ 読売新聞 (書評)
- ・ 読売新聞オンライン、ヨミドクター (書評)

シビを活用してコレステロール値や中性脂肪値の改善に取り組みましょう。

(Gakken 最新改訂版) 千葉大学医学部附属病院が教えるコレステロール・中性脂肪対策レシピ：「はじめに」より転載

かったと言えます。

結局、8刷りまで重版を繰り返しました。「ノンフィクション、冬の時代」と言われる中ではけっこうなヒット作でした。単行本がヒットすると文庫化の話が1年後くらいに出ます。しかしこの本は文庫化までに5年もかかりました。理由は簡単で、単行本がロングセラーになつていからです。発達障害の子を持つ親が、この本を必要とし続けてくれたのです。

今回、私のわがままで本書を文庫本にさせていただきました。新たな読者層を獲得することができるとはと考えたからです。文庫化にあたって、最終章を加筆しました。その後の家族の5年間をインタビューしてまとめたのです。文庫版のサブタイトルは、私の心の中では『自閉症児と母の22年』という感じです。

障害を持った子を育てる家族の姿を22年の長きにわたって文章にできるというのは、書き手にとって大変幸せなことです。母と子の成長の過程がとてよく分かります。私もこの家族の物語を書くことで、多くのことを学びました。医者としても成長したように感じます。

同窓の皆さまには、ぜひ、手に取っていただけるよう

猪狩英俊 (昭63) 監修 千葉均 (感染制御部看護師長) 編集

千葉大学病院

病院感染予防対策パーフェクトマニュアル 改定第3版

診断と治療社 定価 4180円 (税込)



看護師一人です。感染制御の実務を行っています。そのようなニーズに応えることが大きかったと思います。

この本は、ほぼ千葉大学病院のマニュアルですが、購入した方にとっては、「マニュアルに利用できる素材集」です。是非、それぞれの医療機関の事情に合わせて、加筆修正して、より実践のマニュアルにしてほしいと考えています。

2020年1月にはじまるCOVID-19のパンデミックは、2023年5月8日より5類感染症に移行し一つの区切りをむかえました。3年を超えるCOVID-19対応は、感染制御担当者にとって苦しい日々でした。千葉大学病院でも、COVID-19の知見が公表される毎に新たな対策として導入し、強化してきました。このパーフェクト・マニュアルには、この

手を取りました。理由も簡単で、単行本がロングセラーになつていからです。発達障害の子を持つ親が、この本を必要とし続けてくれたのです。

よな最新情報も盛り込んでいきました。そして、2022年5月にはじまるエムボックス(サル痘)対応も記載しました。

感染制御は地球環境への配慮も求められるようになってきました。千葉大病院のマニアルでは、感染制御の理念(ミッション・ビジョン・バリュー)を明確にし、SDGs (Sustainable Development Goals) への取り組みにも触れました。これは、先端的な取組と自負しています。

今回の第3版は、千葉大学病院感染制御部の千葉均看護師長を中心に改訂作業を行ってきました。ゐのはな同窓会の皆様の施設でも是非ご活用いただきたいと思えます。皆様からのご意見等をお聞かせいただけますようお願いいたします。

欧州医学史巡り

フィレンツェ

杉田克生(昭54)

フィレンツェは美術愛好家ならずとも有名なウフィッツイ美術館を想起されるが、医学史的にも見どころ多き地である。まずはフィレンツェ大学附属のラ・スペコラがある。ラファエロの「小椅子の聖母」があるが、訪問する者はほほえない。入館受付から展示室に入ると、鳥や哺乳類の剥製標本が数多く展示されている。この博物館の正式名は王立自然史博物館と称され、18世紀にハプスブルク家出身のトスカーナ公がイタリア国内の動物の剥製や医学標本を集めた。ラ・スペコラとは「観測」の意であり、以前は天体観測所がおかれたことに由来する。ガリレオが用いた天体望遠鏡なども含め、天体観測の展示品は現在ガリレオ博物館に移された。

多くの剥製展示品が各部屋に展示されているが、その奥にお目当ての人体蠟人形室がある。等身大の端正な体つきの女性裸像が横たわっている。標本模型は解剖学の教科書そのままに精巧である。次の部屋には全身筋膜マンの蠟人形がある。学生時代骨筋学は学んだが、この様な教材があれば一層勉学に励んだかもと怠け者は思った次第である。隣室は局所解剖の標本が数多く展示されているが、アートの先進国イタリアならではのであろう。ちなみにアートの「Eti」の語源は、ラテン語「Eti」で「技術」の意である。ウィーンには医学史博物館があるが、その蠟人形もイタリアの職人が作成したと聞いている。

フィレンツェには他にも数多く医学史関連施設がある。その一つに捨て子養育院がある。日本でも「赤ちゃんポスト」が以前話題となったが、その元祖である。当初は柱廊右わきの窓の下に盤を置き、24時間体制で赤子の泣き声に聞き耳を立てていたとされる。開所は1445年で、最初の1年間で90人の捨て子を受け入れた。1660年には回転皿式の赤ちゃんポストが柱廊左端に据えられた(写真)。この受け皿(ルオータと称した)を180度回すと、親は顔を見られることもなく赤子を室内へ渡すことができた。現在は窓は閉じられ使われていないが、当時のフレスコ画がポストを囲むように残っている。

養育院は現在絵画館(Galleria dello Spedale degli innocenti)となっている。innocentiとはイタリア語で「捨て子」の意である。聖書のテーマである「幼児を守る聖母マリア」などのフレスコ画も展示されている。養育院はこれら聖書の絵解きとなる聖画・聖像を必要とし、一流芸術家の絵画や彫刻が寄進された。15世紀末には市内で最も重要な記念碑的美術の殿堂となっていた。館内の片隅には、捨てる際に赤子と将来再会した時の目印にと母親がつけたリボンやコインを半分に割ったものなどが展示されている。

なお、18世紀後半には天然痘が猖獗し、1756年に実験的なワクチン接種が行われた。1822年には養育院内にワクチン研究所が建設され、保健衛生にも寄与してきた。この養育院

奥には「イノチェンティ」なる名のユニセフの研究所もおかれ、現在こどもの支援活動をしている。

投稿のご案内

- 近況報告、随筆(エッセイ)、趣味、現代の医療問題についてなどの内容で奮ってご投稿ください。
- 原稿は1,400字程度で事務局まで!
- 会報の発行日は1月、6月および9月です。

ゐのはな同窓会事務局
e-mail: info@inohana.jp



写真 捨て子養育院の元祖「ルオータ」

第37回 日本放射線腫瘍学会 高精度放射線外部照射部会学術大会

適応放射線治療のフォアフロント
A State of the ART

会期 2024年3月2日(土)
会場 東京コンベンションホール (東京スクエアガーデン5F 東京都中央区京橋3-1-1)
出席世話人 宇野 隆 (千葉大学大学院医学研究院 画像診断・放射線腫瘍学 教授)

事務局 千葉大学大学院 医学研究院 画像診断・放射線腫瘍学
〒240-8670 千葉県千葉市中央区京橋1-8-1
TEL 043-226-2100 / FAX 043-226-2101

運営事務局 (株)SKアベックスプラン
〒104-0041 東京都中央区新富2-4-14 新富ビル6-4階
TEL 03-3523-3722 / FAX 03-3523-3723
E-mail: info@skap.jp

雑文雑談

鏑木清方

石出 猛 史 (昭52)

鏑木清方(1878~1972)は、美人画で知られる日本画家である。代表作として「築地明石町」「浜町河岸」「新富町」の美人画三部作(以下「三部作」)が知られている。父親は条野探菊(1832~1902)とい、幕末の戯作者で明治に入ってから新聞記者、「やまと新聞」などの新聞社経営に携わった。また東京市の議員を勤め歌舞伎座の創設にも関わった。「鏑木」は母方の姓で、寛永年間(1624~1644)から代々浅草の第六天神社(現浅草蔵前在)の神主を勤めた。清方が生まれた翌年に没した母方の祖父は明治5年(1872)までその職にあった。

清方の絵画歴は、幼児期母方の大伯母から江戸時代の草双子の絵解きをしてもらったことが始まりである。小児期に新富座で芝居見物をした帰りに、鏑絵を買ってもらったことも浮世絵に馴れ親しむ一因になったのであろう。明治24年(1891)、当時一番の売れっ子押絵画家水野年方(1866~1908)に入門して本格的な絵の修業が始まった。年方は浮世絵画家月岡芳年に師事し、若くして武者絵などの浮世絵で名を挙げた。また南画・花鳥画を学び日本画家としての名声を確立した。年方に師事した清方も南画・花鳥画の技法を受け継いだと考えられる。清方は、「やまと新聞」に15歳で齣絵が16歳で挿絵が掲載されて、画家としてスタートを切った。

当時清方は母親と母方の祖母(後に照夫人も扶養家族に加わる)とを養っていた。後に挿絵画家として収入が安定するまで経済的に困窮していたこと、30回の転居もそれに関係があったことを記している。この頃収入を補うために、浴衣の柄絵の制作・陶器の絵付けもしたということであるが、これらは技術の幅を広げる上で役に立ったのではないであろうか。

「三部作」の表題になっているのは、隅田川西岸と近傍の町の名で、清方が大変気に入っていたことが随筆で述べられている。築地と明石町は一体のようにみなされており、明治以前は沿岸を除いて大部分が大木屋敷と武家屋敷で占められていた。明治に入ってから30年程外国人居留地が設けられていた。清方は西洋風の風景に憧れをもち、洋式のメトロポール・ホテルに一度泊まってみたかったと述べている。明石町の居留地の名残が聖路加である。清方の作品に「築地川」というスケッチ集がある。築地川というのは、隅田川から入って隅田川に抜ける運河である。幼少期築地で暮らしたのは、築地川に面した宇和島伊達家の上屋敷の敷地の一角である。伊達家の邸も築地川から水を取り入れて庭に泉水を作っており、美しい御姫様が舟遊びをしているのが垣根越しに見えたこと記している。川の水を取り入れた庭園は潮入回遊式庭園と呼ばれ、現在も隅田川沿いに芝離宮・浜離宮・清澄庭園・旧安田庭園が遺っている。浜離宮と旧築地卸売市場の間の堀が、埋め立てられずに遺った築地川の一部である。

清方が明治39年から44年まで暮らした浜町河岸は、やはり隅田川につながる浜町川を挟んだ河口近くの町である。この川も現在は埋め立てられて浜町緑道となっている。この一帯の両岸も明治以前は、大名屋敷武家屋敷が並んでいた。清方が住んでいたのは旧熊本藩主細川氏の下屋敷にあつた長屋の一つである。ここは現在浜町公園になっている。当時のこの辺りの隅田川の情景を詳しく記している。新富町には住んだことはなかったようであるが、3歳の頃祖母に連れられて、当時日本一の大劇場と謳われた新富座で芝居を見物して以来、足繫く歌舞伎見物に通った町である。

「三部作」の「築地明石町」のモデルは、照夫人の女学校時代の同級生で江木ませ子という女性で、銀座の江木写真館の息子で農商務省の役人江木定男の夫人である。「新富町」の女性は、当時花柳界があつた新富町の芸伎であるが、人物は特定されていない。「浜町河岸」は、踊りの稽古帰りの裕福な商家の娘らしい女性を描いている。筆者の推測であるが、清方が母親婦美の娘時代を想像して描いたのではないかと考えている。婦美は神主の娘であつたものの、芸事を好み派手好きで、清方は江戸女の気風を持つていたと回想している。

徳川家康の関東入部後浪人していた千葉氏宗家第27代重胤は寛永10年(1633)江戸で没した。子が無かつたため千葉氏本家は断絶した。その弟の俊胤は佐倉城で徳川家康の五男信吉に仕えたが、信吉の早世によって絶家となったために浪人となった。その後江戸に出て慶長10年(1605)浅草の鳥越明神の神主となり、「鏑木」に改姓した。後に長男胤正に神主職を継がせ、その弟の正胤を第六天神社の神主に就かせた。即正胤は鏑木清方の母方の先祖にあたる。従って清方は千葉氏の一族であり、しかも宗家に近い血筋である。清方はこれを知らなかったのではあるまいか。筆者はこれまでにこの事実に触れた記述を眼にしたことがない。奇異なことである。



第28回 日本医療情報学会 春季学術大会 シンポジウム2024 inちば. Information for the 28th JAMI 2024 Spring Academic Conference Symposium 2024 in Chiba, including dates (6/13-15), venue (Kazusa Academia Hall), and speakers (Ryuzo Suzuki, Kazuo Ueno, Shigeaki Tsuji).

令和5年度 第2回理事会議事要旨抜粋 (ZOOM利用によるweb会議)

日 時：令和5年11月8日
(水) 18時より

出席者…

- 吉原俊雄 (会長)
- 栗原正利 (副会長)
- 中村真人 (副会長)
- 白澤 浩 (副会長)
- 大井利夫 (参与)
- 伊藤達雄 (参与)
- 赤倉功一郎 石川詔雄
- 伊藤彰一 上田真喜子
- 黒木春郎 剣持 敬
- 小島広成 齊藤光江
- 諏訪園靖 高橋宏和
- 田邊政裕 鶴田好孝
- 中島 透 西川哲男
- 幡野雅彦 林田和也
- ピアス洋子 星野 聡
- 三澤園子 三科孝夫
- 宮本恒彦 森本直樹
- 横須賀忠 (敬称略)

吉原俊雄会長が座長となり協議が進められた。

議題

1. 報告事項

(1) 予算執行状況 (中間報告) 諏訪園靖理事より資料に基づき、収入について、会費は現時点で昨年と同じ納入状況であり、事業収入 (団体保険収入) についても

昨年とほぼ同額である。寄附金・一般寄附金として故福田康一郎先生ご遺族からの寄附があり、特別寄附金・メモリアル事業DVDの寄附は継続しており令和5年度分として1,161,000円となった。支出については、総務費・総会費は例年どおりの支出額、理事会費はZoomの利用料金、一般管理費・交際費は弔電代、解剖慰霊祭供花代、消耗品は主にコピー用紙、コピー料金、校友会費は令和5年度会費、事業費・会報、会誌は印刷費、渉外助成金・白菊会は医学部寄附金として支出、支部活性化経費は6支部 (近畿、中京、静岡、東京、茨城、大学) に支援し、同窓サポートプロジェクト経費は「千葉性暴力被害支援センターちさと」への法人会員費、卒後50周年感謝状 (昭46年卒がコロナ禍で遅れての開催) 作成代、DVDパンフレット増刷代金等を支出している事などが説明され、承認された。

(2) 医学部旧本館DVD寄附状況、その後の経過 吉原会長より10月31日現在の寄附者について同窓会員1,065名、非会員212名、寄附金額が648万円との報告があった。DVDを知らない会員もまだ多数おり、白衣式など様々な場面での周知、DVDパンフレットのデザインについても再考など検討が必要であり、石川詔雄理事よりパンフレットが手元にあると良いとの意見があった。

(3) 150周年記念文集原稿の受付内容と予定原稿 吉原会長より会員、会員以外の千葉県在住の方、郷土博物館長メッセージなどの掲載も予定している。その他、中山恒明先生ご息女との対談形式によるもの、終戦直後の旧本館水彩画なども掲載予定である事が説明された。様々な世代に執筆を依頼し、理事の先生方の寄稿も募っていく事とした。

(4) ホームカミングデーについて 令和5年11月19日 (日) 医学系総合研究棟3F第1講義室にて開催する事が説明された。卒後60年、50年、25年の参加希望者は57名である。アクティブラーニングスペースに卒業時の会報、千葉医科大学の写真など展示し、研究棟、附属病院の見学を予定している。卒後60年の先生方には千葉大タック

キーを準備しているが、卒後60年の記念メダルも希望があれば、お渡しする事とした。

2. 協議事項

(1) 令和6年度総会

総会については、従来のステーションコンファレンス東京 (サピアタワー内) が明年6月使用不可のため、東京駅近くのトラストシティコンファレンスで開催する事が認められた。ハイブリッド開催とし、企画については、医学部150周年を考慮しシンポジウム形式または講演会とするなど意見をいただきたいとの説明があった。

(2) 理事会について 今後の理事会については、年3回開催のうち1回を対面で行う事が承認された。開催時期については4月、11月開催を総務会やアンケート等で検討する事とした。

(3) 同窓会としての千葉大学医学部150周年記念事業について 栗原正利副会長から、長尾精一胸像再建については (株)ナガエに製作を依頼し、本社の富山県高岡市に11月25日、会長と共に契約に行くことが説明された。胸像再建のもととなる塑像の輸送については業者に見積りを依頼中である。石碑につ

いても説明があり、胸像周囲の樹木の剪定やフェンスについては大学施設環境部に相談している。

歴史年表については、吉原会長からナレーション付きの歴史年表についても検討することが説明され、田邊理事からも進行中であることが述べられた。

(4) 病院を主体とする150周年記念式典の現状と同窓会との関りについて 医学部創立150周年について、病院長が希望する「千葉大学医学部・病院創立150周年記念式典」の名称は了承したが、式典寄附事業においては胸像再建、歴史年表などは同窓会独自で行い、式典寄附事業から削除することとした。病院施設環境整備等の病院寄附募集には同窓会は関与しないとし、すでに式典企画委員会にはその旨を伝えていくことが説明された。

(5) 千葉大学基金寄附依頼の同窓会報への同封について 基金室よりの寄附依頼等の資料が昨年より1部増えているが、次回の会報発送時に同封する事が承認された。

(6) あのはな同窓会報への県医師会広告掲載について 神奈川県医師会より承継・開業についての相談窓

口設置の広告掲載依頼があり、今後の広告掲載についてもルールを決めるなど引き続き検討する事とした。齊藤江江理事から、公的機関であっても安易に受けられない姿勢に賛成である。中村真人副会長から各同窓会でのニーズ、承継問題の実施について調べる必要がある事などの意見があった。

(7) その他

吉原会長より赤倉功一郎理事が令和6年4月から静岡のJCHO病院長に就任される事が決まり、顧問などの役割にて静岡あのはな会へのご協力を依頼した。赤倉理事より東京あのはな会との整合性について検討する旨述べられた。



事務局からのお願い

◎転居・転勤などの届出
異動の都度、事務局へご一報ください。

野見山 啓之 (平1761) 鈴木 俊輔 (山口大・昭59) 中山 健憲 (昭50) 林本 健介 (昭44) 山崎 素子 (昭44) 宮崎 義龍 (昭44) 東山 一広 (昭42) 鈴木 広之 (昭39) 角張 雄二 (昭39) 邱信男 (昭36) 藤村 眞示 (昭35) 小島 充尚 (昭34) 武田 三勉 (昭32) 島田 昭彦 (昭31) 米本 昭二 (昭29) 溝部 孝彦 (昭27) 小林 清房 (昭25) 石毛 義治 (昭25) 高谷 嘉一 (東京大・昭23) 齊藤 嘉一 (昭23)

おくやみ

るのほな同窓会報一九四号をお手にとつて頂き誠にありがとうございます。また、多くの寄稿を頂いた先生方、医学部学生の皆様、編集校正にご尽力いただいた編集委員の先生方や同窓会事務の方々に厚く御礼申し上げます。

今号が届く年末年始においては、引き続き新型コロナウイルス感染症流行に加え、2019年以來となるインフルエンザの大流行、季節外れの咽頭結膜熱、更に予測されるマイコプラズマの流行などへの対処が続き、病院・診療所において内科・感染症科に限らず全科の診療に多大な影響を与えていることが心配されます。

最近では、2024年春に実施される診療報酬改定への議論が喧しいところですが、マイナス改定を主張する財務省提言の根拠

編集後記

の一つとなったのが、2012-22年における医療機関における増収、赤字の拡大でした。発熱外来補助金、新型コロナ診断治療に対する診療報酬上の優遇、ワクチン接種料などが医療機関の収入の平均を押し上げたのは間違いありません。一開業医として大げさになるかもしれませんが、命を張って感染症診療に励んだつもりで、多少収入が増えた結果は一時的なものだと判っておりません。しかしそれを根拠に診療報酬を大幅に下げようという提言は、まるで頑張りすぎたことに対する懲罰のようで大きなショックでした。先進国随一の新型コロナウィルス感染症による死亡率の低さは、医療従事者の奮闘のおかげというのには自惚れなものでしょうか？

医療費を含む社会保障費の増加を何とし

ても抑制したい財務省と、賃金が増えないのに物価高に苦しみ、更に医療費まで増えるのかと狼狽する国民に挟まれた我々医療者は、為す術も無く診療報酬改定を受け入れるしかないでしょう。国民皆保険という枠組みを維持しながらも、負担できる方々に何らかの付加価値をもたらす大胆な仕組みの変化が必要なのかもしれません。るのほな同窓会においても、様々な行事の創意工夫、会報内容やホームページの充実など図られています。特に若手会員からの多くの支援を頂くには、もっと大胆な何かが必要なのかもしれません。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

会報194号編集委員

- 諏訪園 靖 (平6) 編集委員長
 杉田 克生 (昭54) 飯沼 克博 (昭55)
 白澤 浩 (昭57) 剣持 敬 (昭58)
 今野 慎 (昭62) 小島 広成 (平3)
 宍戸 忠幸 (山梨医大・平8) 大西俊一郎 (平17)
 (敬称略)

千葉医学99巻5・6合併号 2023年12月

最終講義

麻酔科医の活動:手術室から外へ 磯野史朗

話題

医学用語語源対話 X 杉田克生 池田黎太郎

千葉医学会奨励賞

拡張型心筋症における心臓CTを用いた左室心筋障害の新しい定量評価 -心臓CTによる心筋障害診断の展望- 八島聡美

学会

- 第1462回千葉医学会例会・第12回臨床研修報告会
- 第1477回千葉医学会例会・第47回千葉泌尿器科同門会学術集会
- 第1485回千葉医学会例会・第48回千葉泌尿器科同門会学術集会

研究報告書

2022年度猪之鼻奨学会研究助成金研究報告

編集後記

清水栄司

第98回千葉医学会学術大会

第16回(2024年度)千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について

第17回ちばBasic & Clinical Research Conference開催のお知らせ

99巻総目次・索引

Chiba Medical Journal

Original Article

Study on ankle foot orthosis repair for patients with cerebral palsy
Tatsuki Kobayashi, Hiroaki Tsuruoka, Masayuki Someya, and Naohisa Kikuchi

Case Report

Unintended advancement of ventricular catheter during external ventricular drainage placed via the occipital route: report of two cases
Marina Sakata, Yuri Kawashima, Akihiko Adachi, Kosuke Adachi
Yuya Furukawa, Tomoko Yoneyama-Sarnecky, and Michio Nakamura

会費納入のお願い
口座振替のおすすめ

るのほな同窓会費(5,000円)の納入をお願い致します。
会費納入には口座振替が便利です。

口座振替申込用紙は同窓会事務局までご請求ください。

TEL: 043-202-3750

E-mail: info@inohana.jp

*他金融機関からゆうちょ銀行への振込先

〇一九(ゼロイチキユウ)店(019)当座0143947